

令和 7 年度(2025 年度)

事業報告書



社会福祉法人 平塚市社会福祉協議会

目 次

◎令和7年度事業運営における重点目標の結果	1
【事業区分：社会福祉事業】	
I 法人本部拠点区分	4
1 法人拠点事業	4
II 老人福祉センター拠点区分	12
1 老人福祉センター事業	12
III 福祉会館拠点区分	13
1 小地域福祉活動支援事業	13
2 ボランティアセンター事業	18
3 援護事業	24
4 子育て援助活動支援事業	26
IV 平塚栗原ホーム介護拠点区分	28
1 日常生活自立支援事業	28
2 特定相談支援事業	29
3 生活介護事業	29
V 豊田分庁舎拠点区分	32
1 地域子育て支援拠点事業	32
VI くらしサポート拠点区分	33
1 生活支援事業	33
2 貸付事業	33
3 生活困窮者自立相談支援事業	34
【事業区分：公益事業】	
I 福祉会館拠点区分	37
1 介護者支援事業	37
II 平塚栗原ホーム拠点区分	39
1 法人後見事業	39
2 居宅介護支援事業	40
3 地域包括支援センター事業	41
4 成年後見制度利用支援事業	43
5 高齢者権利擁護応急的事務管理事業	44
6 在宅医療・介護連携推進事業	45
7 システム会議運営事業	47
【事業区分：収益事業】	
I 福祉会館指定管理拠点区分	49
1 福祉会館運営事業	49
II 平塚栗原ホーム指定管理拠点区分	52
1 平塚栗原ホーム運営事業	52
◎別表1 社会福祉基金事業一覧表	53
別表2 年末たすけあい配分事業一覧表	55

◎令和 7 年度事業運営における重点目標の結果

1 相談支援体制の強化

市社協には、多くの複合的な相談が寄せられています。どこの部署にいかなる相談が入っても、断ることなく、解決に導くための支援に繋がれるよう努めます。

相談に従事する職員のスキル向上に努め、市社協内で連携して支援にあたれるような重層的な支援体制の構築を目指します。

【重点目標の結果】

社協内で相談業務に関わる部署の連携を強化し、相談体制を強化する目的で相談業務連絡会を 4 回実施しました。

相談に従事する職員のニーズを考慮して、相談技術のスキルアップ向上を目指すとともに、新しい制度や取り組みについて学ぶ内容とし、市社協内の連携強化を図りました。

2 コミュニティ・ソーシャル・ワーカーの活動推進

制度の狭間や多様な福祉課題を抱えることで、支援機関が定まらず、地域の中で取り残されているケースを見つけ出し、行政、関係機関、地域等と連携しながら必要な支援につなげられるよう努めます。また、住み慣れた地域で孤立することなく、安心して暮らせるような支援機関や地域のネットワークづくりを強化します。

【重点目標の結果】

地域で複雑化・複合化したケースが増える中、本人からの SOS だけでなく、地域や関係者からの情報をもとにケースを把握し、支援にあたりました。既存の制度やサービスが使えない対象者にも、地域のサロンや福祉村、NPO 団体、ボランティアグループ等の社会資源を活用しました。

また、大学や企業等関係団体と連携し、団地のコミュニティづくりを推進したほか、分野や組織を超えた支援者間のつながりを強化するため、支援者間交流会を開催しました。

3 生活困窮者への支援の充実

生活困窮世帯の増加により支援の必要性が高まっています。くらしサポート相談（生活困窮者自立相談支援事業）を主とする相談支援と並行して、寄付物品受け入れと配分、日用品支給事業を充実させていきます。

【重点目標の結果】

フードバンクや企業等関係団体より寄付物品を受入れ、何らかの理由で公的給付を受けられない生活困窮者へ食材や物資を延べ 106 件配分しました。（前年度延べ 126 件）

4 子育て支援のプラットフォーム

行政や子育て支援団体等と構築している子ども・子育て支援ネットワークでは、推進委員会、部会、各種プロジェクトを展開し、様々な企画や交流会を行います。平塚市で安心して子育てをすることができるよう、参加団体が増加するよう、ネットワークを強化していきます。

また、昨今では、児童虐待の防止やヤングケアラーの課題は社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。ネットワークをはじめ地域の見守り体制や各種相談において、関わる支援者の課題意識を高め、気づきを大切にして行政や関係機関と適切に連携を図ります。

【重点目標の結果】

子育て支援のプラットフォーム構築を目的として、行政や子育て支援者とネットワークづくりに向けて会議を開催しました。また、サロン運営団体を対象に子育て世帯や子育て支援者に向けてSNSを活用した情報発信を行う講座を開くほか各種プロジェクトを実施しました。

子ども食堂実施団体には、新たに8団体が加入しました。

5 災害時支援体制の強化

平塚市が地震や風水害などで被災地となった場合に市からの要請で設置する「災害ボランティアセンター」を令和6年度に初めて開設しました。この経験を活かした設置運営訓練の実施、災害ボランティア登録、関係機関との情報共有や連携を強化します。

また、災害ボランティア活動への関心を深め、住民相互の共助など安全で安心して暮らせる地域社会づくりを目指します。

【重点目標の結果】

災害ボランティアセンターを設置運営した経験を活かし、例年実施する災害ボランティアセンター設置運営訓練では、初めて関係団体の実務者を対象とした内容を実施しました。

また、平塚市総合防災訓練や市主催の自主防災組織研修会等の外部へ協力・参加することで、関係団体との連携の強化を図りました。

地域や学校などで協力している車いす体験学習において、必ず災害時を想定した搬送体験を取り入れることで住民への啓発を図りました。

6 企業等への貢献活動の参加促進

企業等で取り組まれる寄付やボランティア活動などの貢献活動が活発となるよう、企業等の特性を住民課題の解決や地域福祉活動に結び付け、地域社会への貢献促進につながるよう周知に努めます。

賛助会員への加入促進のほか企業等に向けた福祉学習の機会を提供します。

【重点目標の結果】

企業等から寄付された物品は、子ども食堂や学習支援団体、町内福祉村等関係団体へ配分しました。

福祉学習の機会提供では、地域や企業等を対象に、高齢者・障がい者の疑似体験等の出張ボランティアスクールや認知症サポーター養成講座を積極的に行い、福祉への理解促進につなげました。

また、集合住宅を運営する企業と連携し、高齢者のフレイル予防や閉じこもり防止を目的とした事業を実施しました。

7 自発的な事業展開

職員一人ひとりが地域福祉を推進する組織の一員としての自覚を持ち、新しい発想や柔軟な対応を意識し、住民からの信頼を得て必要とされる社協を目指します。

市社協として行っている事業について、地域共生社会の推進や、新たなニーズに応じた自発的な事業展開に努めます。受託事業についても、市社協に任された意義を十分に踏まえ、積極的に取り組みます。

【重点目標の結果】

各事業において、市社協会員の意見や地域住民のニーズに基づいた事業展開に努めました。

ボランティア育成事業では、ボランティアの減少を受け、障がい児移送ふくふく号運転ボランティア養成講座を新たに開催しました。また、活動依頼件数の増加、ボランティアセンター運営委員や関係団体からのニーズに応じて、各種ボランティア養成講座の開催計画を立案しました。

この目標は、市社協の全ての事業に通じる基本理念として職員の共通理解の上で積極的に取り組みました。

事業区分：社会福祉事業

I. 法人本部拠点区分

1. 法人拠点事業

(1) 役員等会議

ア. 正副会長会議（1回）

次年度の事業計画及び予算案を理事会に提出するための内容確認を行った。

開催日 3月3日（火）

イ. 理事会（定数11人）（5回）

法人運営に関する諸議案を議決した。

開催日 6月3日（火）、6月19日（木）、9月2日（火）、12月2日（火）、
3月19日（木）

ウ. 監事監査（定数2人）（1回）

令和6年度を対象とした事業報告及び決算の監査を行い、監査報告を作成した。

開催日 5月23日（金）

エ. 定時評議員会（定数25人）（1回）

理事会から上程された令和6年度事業報告及び決算について審議し、原案どおり承認した。

開催日 6月19日（木）

オ. 臨時評議員会（定数25人）（3回）

理事会から上程された議案を決議した。

開催日 9月25日（木）、12月18日（木）（書面開催）、3月26日（木）

カ. 評議員選任・解任委員会（定数5人）（2回）

理事会から推薦された評議員候補者について審議を行い選任した。

開催日 6月20日（金）、3月23日（月）

キ. 役員研修

未開催

(2) 事務局運営

ア. 正会員と会費

会員区分		会員数	金額（円）
1号会員	地区社会福祉協議会	23	151,700
2号会員	自治会連絡協議会	1	5,000
3号会員	地区民生委員児童委員協議会	23	79,000

4 号会員	保護司会	1	13,200
5 号会員	社会福祉施設 (法人)	142 (35)	422,000 (126,000)
	(施設)	(81)	(243,000)
	(地域作業所)	(26)	(53,000)
6 号会員	当事者団体	11	33,000
7 号会員	社会福祉活動団体	14	42,000
8 号会員	社会福祉協力団体	2	6,000
9 号会員	社会福祉に関する学識経験者	2	-
10 号会員	社会福祉に関係ある行政機関	2	-
合 計		221	751,900

イ. 賛助会員と会費

23 地区 (300 円未満の協力会員を含む)

54,761 件 16,882,090 円 ※ 1 件あたり平均 308 円

(うち、特別賛助会員会費 1 口 5,000 円 149 件 825,000 円)

	賛助会員 件数	賛助会費 (円)	特別賛助会員 件数	特別賛助会員 会費 (円)	合計 (円)
富 士 見	3,499	1,079,475	0	0	1,079,475
崇 善	2,584	580,800	1	5,000	585,800
松 原	1,515	453,850	1	5,000	458,850
港	3,001	955,050	23	130,000	1,085,050
花 水	3,039	916,984	0	0	916,984
なでしこ	2,193	657,600	0	0	657,600
八 幡	1,354	428,900	0	0	428,900
真 土	2,605	554,850	0	0	554,850
四 之 宮	2,453	736,240	30	165,000	901,240
中 原	2,922	864,019	0	0	864,019
南 原	1,200	360,000	0	0	360,000
松 が 丘	1,697	488,712	1	5,000	493,712
豊 田	1,262	308,800	0	0	308,800
田 村	2,899	869,700	28	155,000	1,024,700
大 神	954	503,200	0	0	503,200
横 内	2,104	567,850	0	0	567,850
城 島	894	468,750	36	215,000	683,750
岡 崎	2,545	763,500	29	145,000	908,500
金 田	2,344	685,450	0	0	685,450
土 沢	1,156	346,200	0	0	346,200
旭 南	4,278	1,112,070	0	0	1,112,070
旭 北	4,218	1,187,130	0	0	1,187,130
金 目	3,896	1,167,960	0	0	1,167,960
合 計	54,612	16,057,090	149	825,000	16,882,090

ウ. 企業賛助会員会費 (市内の企業、事業所等の会員)

1 口 5,000 円 42 社 55 口 275,000 円

エ. 社会福祉士相談援助実習受入れ

神奈川社会福祉専門学校 2 人 (24 日間、8 日間)

東海大学	3 人（24 日間、8 日間）
田園調布学園大学	1 人（24 日間）
聖徳大学	1 人（8 日間）
合計	7 人、受入日数 72 日間（重複期間あり）

オ. 職員対象自主研修

本会の使命である『誰もが安心して暮らすことができる福祉のまちづくりの推進』のためのコミュニティワークの実践を目指し、職員の人材育成とスキルアップ、ガバナンスの強化、マネジメント能力向上を目的に研修を実施した。

対面方式の研修に加え、学ぶ時間と場所を選択しやすい動画視聴を取り入れた。

3 講座 対象人数 119 人

	研修名（対象）	日程	参加人数
1	自転車の安全運転研修（全職員）	7月18日（金）～	（動画視聴）
2	会計システム操作研修（対象職員）	8月20日（水）	（動画視聴）
3	交通事故防止研修（班長以上）	9月24日（水）	12 人

カ. 後援・協賛事業（20 件）

次の事業に後援・協賛した。

	事業・行事	申請団体
1	第 28 回湘南平塚福祉芸能の祭典チャリティー公演	湘南平塚福祉芸能実行委員会
2	ひらつかオレンジフェス	（一社）日本音楽医療福祉協会
3	注文をまちがえる陽だまりのレストラン 2025	ひらつか地域介護システム会議グループホーム・小規模多機能連絡会
4	第 61 回ゆめクラブ湘南平塚福祉大会	平塚市老人クラブ連合会
5	平塚市子どもの家自主事業「科学マジックショー」	平塚市青少年課
6	福祉の仕事 就職相談会 3rd 平塚	（福）神奈川県社会福祉協議会
7	映画『わたしのかあさんー天使の詩ー』上映会	株式会社現代ぷろだくしょん
8	中高年の発達障害・ひきこもりへの理解と対応（仮題）	すばる
9	第 23 回湘南説法会	平塚市仏教会
10	第 72 回神奈川県社会福祉大会	（福）神奈川県社会福祉協議会
11	新日本プロレス平塚市社会福祉チャリティー	株式会社創
12	2025 フォト四季写真展	フォト四季
13	令和 7 年度市民健康講座	一般社団法人平塚市医師会
14	2025 浅間祭	浅間祭実行委員会
15	夢紡ぐ終活 終活・相続セミナー	こころの相談室 つむぐ
16	第 53 回ゆめクラブ湘南平塚スポーツ大会	平塚市老人クラブ連合会
17	第 55 回ゆめクラブ湘南平塚「趣味の作品展」	平塚市老人クラブ連合会
18	『優しい終活準備』セミナー	ハッピーライフアカデミー
19	夢紡ぐ終活 終活・相続セミナー	こころの相談室 つむぐ
20	第 22 回湘南ひらつかマジシャンズ発表会	湘南ひらつかマジシャンズ

キ. 事故発生報告（8 件）

- ・利用者 5 件
福祉会館利用者の怪我による救急搬送
生活介護事業利用者のやけど負傷
生活介護事業車いす誤発進による利用者及び職員の怪我
子育て支援センター職員コロナ集団感染による臨時休所（3 日間）
子育て支援センター催涙スプレー誤使用による利用者及び職員被害
- ・職員事故 1 件
職員通勤途上の交通事故による休業
- ・トラブル 2 件
平塚栗原ホーム外壁タイル落下
障がい児移送サービス事業車両による物損

ク. 苦情申し立て

0 件

ケ. 情報公開

申請件数 0 件、公開 0 件

(3) 広報宣伝事業

ア. 福祉だよりひらつか発行

福祉に関する普及啓発及び情報発信を行うとともに、様々な福祉事業を紹介して、地域福祉及びボランティア活動の推進等を図る広報紙を発行した。

発行回数 6 回（第 161 号～第 166 号）
発行月 5 月、7 月、9 月、11 月、1 月、3 月
発行部数 12,000 部
配布方法 自治会回覧、公共施設への配架等

イ. 顕彰（敬称略）

（ア）社会福祉功労者表彰式典

永年にわたる社会福祉への功績を称えるため、社会福祉関係功労者の表彰式典を行った。

開催日 12 月 13 日（土）

場 所 平塚市中央公民館 小ホール

参加者 63 人

・平塚市社会福祉協議会会長表彰（11 人）

地区社会福祉協議会 寺本 孝

民生委員児童委員 北澤喜代子 藤澤 茂 花塚 憲子 井上 勝博

本荘 由子 三枝 勝利

保護司 芝岡 良男 三谷 克美

社会福祉活動団体 福岡 光夫 堀田とき子

・平塚市社会福祉協議会会長感謝（9 人）

地区社会福祉協議会 庄司 史弘 中村 克子 平野 和代 石川 啓子

高橋 英夫 廣井 有子 三川 紀子

当事者団体 松山 典子

ボランティア 小沢 貞雄

（イ）平塚市長表彰

12 月 16 日（火）、市長室において次の方が顕彰された。

・自立支援功労者（1 人） 大湯 重信

(ウ) 神奈川県社会福祉大会

1 1月14日(金)、県立青少年センターにおいて次の方々が顕彰された。

・神奈川県知事表彰(1人)

ボランティア 及川 早苗

・神奈川県社会福祉協議会会長表彰(18人)

民生委員児童委員 北澤喜代子 藤澤 茂 花塚 憲子 井上 勝博

本荘 由子 三枝 勝利

民間社会福祉事業所 今井 智章 込山 里江 鈴木 愛 池田 綾

上原 聡 十津川 剛 秋元 一 澤井 マキ

須藤 求巳 川崎 裕美 金子 竜輔 早瀬 康代

・神奈川県社会福祉協議会会長感謝(9人)

民生委員児童委員 相 みさ子 綾部 日壽 大谷 洋子 島村 明美

立澤 厚子 内藤 和子 橋本 勢作

民間社会福祉事業所 渡邊 文子 山岸加奈子

・共同募金功劳者表彰・感謝(7人)

神奈川県知事表彰 佐草 恭造 陶山 正明

神奈川県共同募金会会長感謝 嶋崎 捷夫 原田 三行 平井 正夫

池谷 好秀 外園 宏文

(エ) 全国社会福祉協議会会長表彰

該当なし

(4) 社会福祉展

本会の会員である社会福祉施設等を利用している方々の作品展示を通じ、より多くの市民に社会福祉について理解を深めていただくことを目的に開催した。

開催期間 10月23日(木)～10月28日(火) 5日間

(10月27日(月)を除く)

場 所 中央公民館 ギャラリー

出展施設 52 施設(高齢者入居施設・デイサービスセンター14、障がい者施設 15、
保育園 23)

来場者数 482 人 ※出展施設からの見学者を含む(延べ 24 施設)

(5) 委員会

ア. 総合企画委員会(委員 10 人)

既存事業の評価とともに中期経営計画の検討を行う。

未開催

イ. 平塚市地域福祉推進懇話会(委員 12 人)

開催日 9月30日(火)

ウ. 苦情解決第三者委員会(委員 3 人)

未開催

(6) 部会活動推進事業

ア. 部会活動費補助金

社会福祉協議会の事業推進と連携強化を目的として、部会に運営費等を助成した。

5 部会 合計 240,000 円

内訳: 地区社協部会 60,000 円 自治会部会 18,000 円

民生委員部会 54,000 円 保護司部会 27,000 円

福祉施設部会 81,000 円

イ. 地域福祉事業活動費補助金

地域福祉活動の推進を目的として、研修費等を助成した。

内訳：福祉施設部会 180,000 円

ウ. 地域ネットワーク強化事業

神奈川県社協の委託事業として実施した。

- ・第1回 開催日 10月6日(月)
 場所 平塚市保健センター 講堂
 参加者 16法人 19人、その他 8人
 内容 人材確保をテーマとした社会福祉法人間の連携に向けた情報交換
 講演 「明日からできる人材確保の取り組みについて」
 講師 株式会社パラドックス 渡邊 翔氏
- ・第2回 開催日 2月26日(木)
 場所 サンライフガーデン さがみ野
 参加者 15法人 16人、その他 10人
 内容 人材確保をテーマとした社会福祉法人間の連携に向けた情報交換
 講演 「福祉人材確保の現状について」
 講師 神奈川県社協・福祉人材センター 松永 文和氏
 情報交換 「ネットワークを生かした人材確保とは」

(7)基金管理事業

ア. 平塚市社会福祉基金

・受入件数及び受入額

社会福祉基金設置以後の累積受入件数及び受入額については下表のとおり

区分	昭和56年度～前年度		当年度		受入額	
	件数	金額(円)	件数	金額(円)	件数	金額(円)
市拠出金	8	400,000,000	—	0	8	400,000,000
寄付金	9,685	637,903,544	55	1,577,734	9,740	639,481,278
合計	9,693	1,037,903,544	55	1,577,734	9,748	1,039,481,278

※受入額のうち 60,033,310 円は小泉基金

・社会福祉基金の造成と運用

平成27年度からは、受け入れた寄付金を直接事業費に充てている。なお引き続き国債、地方債等で運用している。(参考資料：別表1「1. 社会福祉基金事業一覧表」)

前年度末 961,044,735 円
 増減 △16,832,805 円(有価証券入替、貸付返済)
 当年度末残高 944,211,930 円

(8)小泉基金管理事業

ア. 故小泉由治郎福祉活動基金(小泉基金)

平成12年度に故小泉由治郎氏より受け入れた寄付金(60,033,310円)については、事業準備積立金となっていたが、平塚市社会福祉基金管理委員会の決定を受け、社会福祉基金内に別基金として設置した。この基金は、次世代を担う青少年の福祉ボランティア意識の啓発を行うことを目的とした事業(ボランティア啓発育成事業)及び福祉の学びの場づくりの事業に活用する。

※事業の実績は、「Ⅲ-2-(4)小泉基金福祉活動助成事業」に掲載。

小泉基金残高 前年度末 44,289,267 円
 増減 △13,970,248 円(有価証券入替、事業費取崩)

当年度末残高 30,319,019 円

(9)高明基金管理事業

令和6年度に高明孝二氏より受け入れた寄付金(50,000,000円)について、平塚市社会福祉基金管理委員会の決定を受け、社会福祉基金内に別基金として設置した。この基金は、市の障がい福祉の向上を図ることを目的とした事業に活用する。

ア. 障がい児等移送サービス事業

社会福祉基金の事業で運営する障がい児等移送サービス事業を高明基金の事業として運営(福祉車両購入費や維持管理費の支出)を行う。

高明基金残高	前年度末	45,500,000 円
	増減	△33,886,956 円(事業費取崩)
	当年度末残高	11,613,044 円

(10)遺児等基金管理事業

ア. 交通遺児等福祉基金

交通遺児等の援護のために受け入れた寄付金については、地方債で運用している。

区 分	件数	寄付金額(円)	基金総額(円)
交通遺児へ	4	250,142	64,450,865

イ. 善意の寄付金

寄付者の目的に沿うよう該当する事業の寄付金収益としている。

区 分	件数	寄付金額(円)
福祉会館事業へ	1	30,000
車両寄贈指定寄付	1	8,090,000
児童福祉へ	2	47,412
合 計	4	8,167,412

(11)一般事業配分金事業

ア. 神奈川県共同募金会平塚市支会の運営

共同募金事業への協力のため支会事務局を担い、赤い羽根及び年末たすけあい募金活動を実施した。

・常任委員会(定数15人)

開催日 4月15日(火)、7月17日(木)、3月12日(木)

・支会委員会(23地区の地区社協会長、自治会連絡協議会長、民児協会会長ほか)

開催日 7月31日(木)

・支会監事監査(監事2人)

開催日 5月23日(金)

イ. 募金実績

種別	目 標 額 (円)	実 績 額 (円)	達 成 率
赤い羽根募金	19,000,000	16,325,859	85.93%
年末たすけあい募金	16,500,000	14,894,683	90.27%
合 計	35,500,000	31,220,542	87.95%

ウ. 神奈川県福祉作文コンクール

県内の小・中学校合わせて131校3,924編の作品が寄せられた。

・平塚市応募総数83編(小学生1校1編、中学生6校82編)

小学生の部 該当者なし

エ. 災害義援金

個人や団体からお預かりした義援金を併せ、該当の県共同募金会へ送金した。

・ 令和 6 年能登半島地震災害義援金	54,744 円
・ 大船渡市赤崎町林野火災による災害義援金	8,659 円
・ トカラ列島近海を震源とする地震災害義援金	36 円
・ 令和 7 年 8 月大雨災害義援金	10,000 円
・ 令和 7 年 8 月豪雨災害義援金（鹿児島県）	482 円
・ 令和 7 年大分市佐賀関大規模火災義援金	1,500 円
・ 令和 7 年台風第 8 号に伴う災害義援金	296 円
合計	75,717 円

オ. 一般事業配分金

本会として共同募金会から配分を受け事業を実施した。

(12) 年末たすけあい配分金事業

参考資料 別表 2 「2. 年末たすけあい配分事業一覧表」

Ⅱ. 老人福祉センター拠点区分

1. 老人福祉センター事業

(1) 老人福祉センターの運営

ア. 福寿カード発行数

市内の福祉会館共通の福寿カードを発行した。

新規 255件、更新 97件、再発行7件

イ. 老人福祉センター等の利用状況

人数及び団体数は延べ、() は内数

開館 日数	個人利用 (人)			団体利用 (人)		合計 (人)
	人数	入浴 利用人数	機能回復訓練室 及び教養室	利用団体数	人数	
295 日	25,307	(13,397)	(4,813)	127 団体	2,406	27,713

ウ. 健康相談

看護師を配置し、血圧測定等を実施 2,728 人

エ. 指定管理事業

(ア) 囲碁ボール体験・モルック体験

囲碁ボール 23 回 483 人、モルック 12 回 127 人

(イ) 健康体操、輪踊り

10 時頃とお昼休み後に利用者向けに健康体操と輪踊りを実施。

健康体操 4,913 人、輪踊り 1,390 人

(ウ) 看護師のミニ講座

看護師ミニ講座にインターネット動画を利用した「懐メロダンス」を実施した。

看護師ミニ講座 3 回 23 人

4 月 19 日 (土) 7 人 「懐メロダンス」

9 月 3 日 (水) 6 人 「さあご一緒につかまりスクワット」

11 月 15 日 (土) 10 人 「懐メロダンス」

(エ) 身体測定実施

5 月 3 日間 47 人、8 月 2 日間 51 人、12 月 2 日間 46 人、

3 月 2 日間 25 人

(オ) 季節の行事

菖蒲湯などの他に七夕の短冊づくりやハロウィン、クリスマス、お正月、ひな祭りなど季節の飾りつけや季節の折り紙製作を実施した。

菖蒲湯 5 月 7 日 (水) 54 人、柚子湯 12 月 22 日 (月) 71 人

Ⅲ. 福祉社会館拠点区分

1. 小地域福祉活動支援事業

(1) 小地域福祉活動支援事業

ア. 小地域支援活動

地区社協主催の事業等に参加し、地域住民に対して福祉の理解と関心を広げるための活動を行った。

参加回数 26 回

イ. コミュニティ・ソーシャル・ワーカー活動（CSW）

制度の狭間や多様な福祉課題を抱えるなど、既存の制度や福祉サービスだけでは対応が難しい困りごとに対して、行政、関係機関、団体、地域等と連携しながら、相談者が地域の中で孤立することなく、安心して暮らすことができるように支援した。

（ア）個別支援

新規相談件数 150 件

相談対応回数（電話、来所、訪問、メール等） 909 回

カンファレンス、個別ケース会議への参加 23 回

（イ）地域支援

- ・地域の福祉関係団体の会議（小地域ケア会議、協議体、地区懇談会）等への参加
地域課題について情報共有するとともに解決策を検討した。

参加回数 27 回

- ・地域課題解決に向けた取り組み（団地のコミュニティづくり）

大学、企業、地域包括支援センターと連携して団地のコミュニティづくりを継続して行った。今年度は、従来の主催者主導のイベントから、住民が主体的に関わる住民参画型イベントとして実施した。

（ウ）ネットワークづくり

- ・支援者間交流会

市民活動センターと共催で、行政、事業所、市民活動団体、地域の福祉関係者等、組織の形や分野を超えた支援者が集まり、課題の共有や、支援にあたっての連携の必要性を学んだ。

内容①「子どもを支える連携支援について」

開催日 7月10日（木）

講師 NP0 法人親がめ 理事長 塚原泉氏

参加者 25 団体 35 人

内容②「つながりの貧困を解消するために～自立生活支援の現状から学ぶ～」

開催日 12月10日（水）

講師 認定 NP0 法人自立生活支援センター・もやい 理事長 大西連氏

参加者 32 団体 36 人

（エ）広報啓発

団体や大学からの要請に応じて、CSWの役割について広く周知を行った。

- ・平塚市就労準備支援事業はたらく・ひらつかスタッフ研修 9月3日（水）
- ・東海大学健康学部ソーシャルワーク演習4授業（市川享子准教授）での講話

- テーマ「CSWの仕事と地域づくり」 10月10日（金）
- ・港地区福祉村ボランティア研修会 11月8日（土）
- ・ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク 学習支援・子ども食堂プロジェクト
1月14日（水）

（オ）相談業務連絡会

本会内の相談支援体制を強化させるため、相談支援にあたる職員のスキルアップと連携を目的に研修会を実施した。

全4回 延べ参加人数 76人

（カ）CSWのスキルアップ研修

多分野にわたる相談に対応するため、子ども、障がい、孤立など様々な分野の研修に参加し、知識や技術の修得に努めた。

全5回

ウ. ふらっとカフェ（自主事業）

将来の不安や日ごろの悩みを話したり、ゲーム、読書、ちょっとした作業のお手伝いを通じて、社会参加のきっかけを提供する場としてふらっとカフェを開設。必要に応じ、くらしサポート相談で継続相談も行った。

・福祉会館

第2水曜日の午後 開催11回 延べ参加者 70人

・地域介護サービスセンター ラポール平塚（四之宮地区）

第3水曜日の午後 開催12回 延べ参加者 46人

エ. 平塚市地域共生フォーラム（共催）

「誰もがチャレンジできる地域づくり～地域共生社会の実現に向けて～」

開催日 2月2日（月）

場 所 平塚市中央公民館 小ホール

講 師 デフリンピック日本代表（デフ卓球）亀澤理穂氏

参加者 53人

（2）平塚市重層的支援体制整備事業への移行準備事業における参加支援事業及びアウトリーチ等を通じた継続的支援事業

令和8年度から本格実施される重層的支援体制整備事業への移行準備として「参加支援事業」及び「アウトリーチ等を通じた継続的支援事業」を実施した。

ア. 参加支援事業

重層的支援会議（本人同意あり）で参加支援事業による支援が必要と判断されたケースがなかったため、相談受付及びプラン作成はなかった。今後、複合化、複雑化した相談に各関係機関が連携して対応できるように包括的支援体制構築の研修会を開催した。研修会には、高齢、障がい、子ども、就労に関する相談機関や病院、子どもの居場所や学習支援に取り組む市民活動団体、地区社協や民生委員児童委員など多くの参加者が集まり、今必要とされている地域のつながりや、制度や分野を超えた連携の必要性を学んだ。

開催日 10月24日（金） 平塚市勤労会館 大会議室

内 容 「複雑・複合化したケースに多機関連携でどう向き合うか」

講 師 室田信一（東京都立大学 准教授）

参加者 45 団体 56 人

イ. アウトリーチ等を通じた継続的支援事業

重層的支援会議（本人同意あり）でアウトリーチ等を通じた継続的支援が必要と判断されたケースに対し、アウトリーチを実施し、対象者及びその家族の支援を行った。

該当ケース 4 件、アウトリーチ 7 回

ウ. 平塚市重層的支援体制庁内検討会議・部会への出席（7 回）

平塚市の重層的支援体制の整備にあたり、関係課長等による会議（庁内検討会議）と担当者による会議（庁内検討部会）に出席した。

(3) 社明運動助成事業

- ・ 青少年健全育成（年末募金配分事業）

社会を明るくする運動の推進母体に活動費を助成 180,000 円

(4) 在住外国人共生事業

- ・ 在住外国人生活支援実践活動への補助（年末募金配分事業）

横内プロジェクト 150,000 円

カベラ日本語の会 100,000 円

湘南 J R C 100,000 円

(5) 地区社協活動支援事業

ア. 地区社協部会 役員会及び会長連絡会議

(ア) 役員会（3 回）

開催日 6 月 6 日（金）（会計監査含む）、12 月 5 日（金）、3 月 6 日（金）

(イ) 会長連絡会議（3 回）

開催日 6 月 27 日（金）、12 月 23 日（火）、3 月 24 日（火）

(ウ) 検討会（未開催）

災害時における市社協（災害ボランティアセンター）と地区社協との連携に係る検討会

(エ) 視察研修受入れ

群馬県前橋市・文京地区社会福祉協議会からの視察研修を受け入れた。

受入地区 真土地区社会福祉協議会

開催日 11 月 21 日（金）

会 場 大野公民館

内 容 真土地区社協の取り組み、子育て支援「ぴよぴよ」会場見学 他

受入人数 24 人

イ. 地区社協活動支援事業

(ア) 地区社協活動支援補助事業

地域の福祉活動を推進するため、運営費、事業費を地区社協に助成した。

社会福祉基金	地区社協活動推進事業(23 地区)	2,261,143 円	5,142,343 円
	高齢者等サロン開催費(20 地区)	2,191,200 円	
	地区ふれあい福祉相談事業費(23 地区)	690,000 円	
赤い羽根募金	地区社協活動事業費(23 地区)	1,561,528 円	2,690,517 円
	協力者育成事業費(23 地区)	1,128,989 円	

年末たすけあい募金	地区ふれあい広場助成(23 地区) サロン事業実績地区助成(17 地区)	1,656,000 円 782,980 円	2,438,980 円
小計			10,271,840 円
賛助会費還元金	賛助会費の 75%を団体活動費助成金として 23 地区社協に還元		12,661,583 円
合計			22,933,423 円

(イ) 地区社協活動育成支援事業

a. 研修事業

- ・平塚市地域共生フォーラムに参加
2月2日(月)

(6)民児協支援事業

住民の福祉に欠かせない民生委員児童委員活動を促進する目的で助成した。

- ・実態把握活動費(年末募金配分事業) 2,768,000 円

(7)団体支援事業

ア. 平塚市自治会連絡協議会(年末募金配分事業)

共同募金活動の他、福祉事業の協力費として運営費を助成した。 700,000 円

イ. その他福祉関係団体へ活動費の補助を行った。(年末募金配分事業)

高齢者福祉	老人クラブ連合会事業費補助	120,000 円
母子福祉	母子福祉なでしこ会事業費補助	36,000 円
障がい児者福祉等	福祉当事者団体事業費補助	11 団体 396,000 円

平塚市障がい者団体連合会	36,000 円	平塚市肢体障害者福祉協会	36,000 円
平塚市視覚障害者協会	36,000 円	平塚市聴覚障害者協会	36,000 円
平塚市手をつなぐ育成会	36,000 円	平塚地区自閉症児・者親の会 平塚やまびこ会	36,000 円
平塚市腎友会	36,000 円	湘南あゆみ会	36,000 円
平塚市地域作業所連絡会	36,000 円	すばる	36,000 円
あおぞら里親会	36,000 円		

(8)地域活動支援センター等補助事業

ア. 地域活動支援センター等利用者活動促進事業(社会福祉基金事業) 400,000 円

イ. 地域活動支援センター等事業助成(年末募金配分事業) 1,343,832 円

(ア) 地域活動支援センターへの配分

(1 か所: 上限 100,000 円) 13 か所 916,373 円

(イ) グループホーム、ケアホームへの配分

(1 か所: 上限 60,000 円) 4 か所 147,459 円

(ウ) 放課後等デイサービスへの配分

(1 か所: 上限 35,000 円) 8 か所 280,000 円

ウ. 寄付金を活用した福祉車両の購入支援

EEJA 株式会社からの福祉向上のための寄付金を活用し、福祉車両更新に要する費用の一部を補助した。

社会福祉法人則信会	ケアハウスういすたりあ	4,045,000 円
社会福祉法人至泉会	ソーレ平塚	4,045,000 円

エ. 障がい者入所施設改良修繕等補助事業

障がい者入所施設の建物や設備について、老朽化又は災害への対応のための修繕や入所者の居住環境の向上のための改造に要する費用の一部を補助した。

区 分	件数	補助総額(円)
市内障がい者入所施設へ	7	34,342,000

(9)子育て支援育成事業

ア. 子育て支援事業等補助金交付事業

平塚市内で子育て支援を行っている団体等、また、これから行おうとする団体等に対し、地域との交流を目的に運営費の一部を補助した。(赤い羽根募金配分事業)

20 団体 680,000 円

補助額	5,000 円	10,000 円	15,000 円	20,000 円	25,000 円
団体数	0	2	0	1	0
補助額	30,000 円	40,000 円	45,000 円	50,000 円	60,000 円
団体数	7	7	0	3	0

内 訳	() は補助上限額	補助団体数
新規活動団体	(1 団体 15,000 円)	0 団体
廃止団体		0 団体

・ 1 回あたり子ども平均参加人数別	補助団体数
12 人未満 (1 団体 10,000 円)	13 団体
13～24 人 (1 団体 20,000 円)	5 団体
25 人以上 (1 団体 30,000 円)	2 団体
・ 年間事業実施回数別	
10 回未満 (1 団体 10,000 円)	0 団体
10～19 回 (1 団体 20,000 円)	15 団体
20 回以上 (1 団体 30,000 円)	5 団体

イ. 子育て支援者交流会

開催日	① 1 月 3 0 日(金)、② 2 月 1 3 日(金)
内 容	子育て応援団体！交流勉強会 ①「Instagram とは?」、「Instagram 活用方法」 ②「実際に使ってみよう!」
講 師	子ども・子育て支援ネットワーク情報発信プロジェクト
参加者	13 人 延べ 25 人

ウ. 子育て応援団体冊子の発行

市内の子育てサークルやサロン、子育て支援情報をまとめた「子育て応援団体!」冊子を作成し、対象者への配付を行った。また、手軽に冊子の内容が見られる二次元コードを載せたチラシの作成、配付を行い、インターネット上での閲覧を可能とした。

・令和7年度「子育て応援団体!」冊子作成数 2,400 部

エ. ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク事業(社会福祉基金事業)

子育て支援に関わるネットワークづくりを進めることを目的として、行政や子育て支援者等とネットワークづくりに向けての会議を開催した。

(ア) ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク推進委員会(2 回)

行政、民間の委員により、当ネットワークのあり方や進め方などについて意見や提

言を行った。

(イ) ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク部会（4回）

子ども・子育て支援ネットワークの活動を具体的に推進し、推進委員会、各プロジェクト、交流会等の調整を行い、取り組み状況等を推進委員会に報告した。

(ウ) ひらつか子ども・子育て支援ネットワーク 各プロジェクト

a. 情報発信プロジェクト（4回）

子育て世帯や子育て支援者に有益な情報をSNS等にて適宜提供できるようにするため、サロン団体に対して講座を開催。Webサイト管理運営等を実施した。

b. 交流会プロジェクト（6回）

子ども達をメインとした「あそびの森」を、学習・食堂プロジェクトと合同で11月29日(土)に吉沢公民館にて開催した。

c. 学習支援・子ども食堂プロジェクト（9回）

周知及び協力者等を増やすため、関係者向けのつどいを開催するとともに、ボランティア養成講座へ協力した。

d. アンケートプロジェクト（1回）

ひらつか子ども・子育て支援ネットワークPRのため、七夕まつりに参加し子どもたちの願い事を集めるとともに、飾りを作成した。また、アンケート結果に基づいたワークショップを開催した。

2. ボランティアセンター事業

(1) ボランティアセンター事業

市民の善意の開発と、地域住民の社会奉仕に関する理解と関心を深めるとともに、ボランティア活動の育成援助と必要な連絡調整を行い、社会福祉の増進を図った。

ア. ボランティアセンターの運営

開所日数 248日

・ボランティアセンター運営委員会（定数10人・2回）

8月6日（水）、3月27日（金）

イ. ボランティアの相談斡旋

ボランティアコーディネーターを設置し、ボランティア活動の相談・援助及びボランティアのニーズ調整を行った。〔 〕は前年度の実績

相談件数 558件 〔569件〕

派遣件数 350件 〔400件〕

	派遣内容	件数
1	演芸ボランティア	105
2	保育ボランティア	78
3	福祉学習	48
4	ボランティア活動 （内訳）高齢者施設、障がい者施設、保育園、 手話、傾聴、子ども食堂、福祉村等	44
5	点訳依頼	35
6	音訳依頼	28
7	視覚障がい者卓球ボランティア	12
合 計		350

派遣延べ人数 1,350人 〔1,469人〕

・ボランティア登録人数

個人 113人 〔99人〕

団体 94団体 1,415人 〔96団体 1,465人〕

登録人数 1,528 人

[1,564 人]

ウ. 広報啓発事業

- ・全国社会福祉協議会発行の冊子「ボランティア情報」を購入し、ボランティアセンター内で配架するとともに、地区社協へ配付した。 年 12 回
- ・「ボランティア活動ガイド」を作成し、ボランティア希望者等に配付した。 22 冊
- ・FM湘南ナパサ、民間情報誌へボランティア講座の案内等の情報提供を行った。また、SNSなどでボランティア募集を呼びかけた。
- ・ボランティアセンターのブログを通じ、学校で行っている福祉学習の実施状況、ボランティア講座の案内及び報告、ボランティア団体の紹介等を行った。
- ・ボランティアセンターの掲示板を活用し、ボランティア募集情報やボランティア講座のお知らせ、福祉学習を実施した小・中学校の児童・生徒からの感想文等を掲示した。
- ・ビデオライブラリーの整備

保有数 117 巻 (うちDVD 22 巻)

貸出 0 件

(2) ボランティア育成事業

ア. 福祉ボランティアスクール

市民を対象に社会福祉の意識啓発及び育成、ボランティア活動への参加促進と活性化を目的として開催。平塚ボランティア連絡会の協力を得て実施した。

開催日 1 月 13 日～2 月 17 日 毎週火曜日 全 6 回

- 内 容
- ①「ボランティアの心得、ボランティアグループの紹介」
 - ②「視覚障がい者の理解をして点字を学ぼう」(平塚点訳赤十字奉仕団)
 - ③「視覚障がいの誘導を学ぼう」(平塚点訳赤十字奉仕団)
 - ④「傾聴を体験してみよう」(神奈川県傾聴赤十字奉仕団)
 - ⑤「聴覚障がいと要約筆記を学ぼう」(要約筆記サークル)
 - ⑥「心肺蘇生法と AED を学ぼう」(平塚市赤十字奉仕団)

受講者 8 人 延べ 39 人

イ. 親子で福祉体験こどもスクール

夏休み期間を利用して様々な福祉体験を通し、高齢者・障がい者への理解と関心を深め、親子での参加を呼びかけ、親子で「福祉」について考えるきっかけづくりを目的として開催した。

開催日 ① 7 月 31 日(木)、② 8 月 1 日(金)

- 内 容
- ① 手話体験 (平塚市聴覚障害者協会、手話通訳士)
 - ② 点字体験 (平塚点訳赤十字奉仕団)

受講者 14 人 延べ 27 人(親子 6 組)

ウ. サロンボランティア向け講座(地区社協・福祉村対象)

地区社協や町内福祉村で高齢者等へのサロンに関わる地域のボランティアを対象に、身近にできる健康づくりや地域で活用できるレクリエーション手法を学んでいただき、それぞれの地域で活用できることを目的として開催した。

開催日 11 月 25 日(火)

会 場 勤労会館 大会議室

内 容 「地域で活用できるレクリエーションについて」

受講者 28 人(地区社協、町内福祉村、地区ボランティアグループ)

エ. ボランティアのつどい

ボランティアセンターに登録する全てのボランティアが一堂に会し、情報交換や交流をする場として開催した。

開催日 1月17日(土)
 会場 中央公民館 小ホール
 内容 演芸ボランティア発表「佐伯 力さん、アンサンブルやよいの演奏」
 福祉作文朗読 2人
 ボランティアに関する保険についての説明(事務局)
 参加数 71人

オ. 福祉学習指導者養成講座

市内小・中学校等で行われる福祉学習において、車いす体験や高齢者疑似体験の指導者となる方を養成した。市内在住で福祉施設で実務経験があり、介護の資格を有している方を対象として募集した。

開催日 3月18日(水)
 講師 本会職員、福祉学習指導者1人
 受講者 3人 ※講座修了後、2人登録

カ. 子ども食堂・学習支援講座

子ども食堂や学習支援団体を立ち上げたい人や協力したい人の参加に加え、取組内容や課題等を広く市民等に理解していただくことを目的として開催した。子ども・子育て支援ネットワークの学習支援・子ども食堂プロジェクトチームの協力を得て実施し、1月24日(土)に開催した「学習支援・子ども食堂のつどい」につなげた。

開催日 10月31日(金)
 内容 学習支援について(小・中学生学習支援 わくわく 高田哲也氏)
 子ども食堂について(かわせみ子ども食堂 西田伸子氏)

キ. 障がい児移送ふくふく号運転ボランティア養成講座

ふくふく号の運転ボランティアが減少し、日常運行に人員不足が生じてきていたため、新たに養成講座を開催した。

開催日 8月8日(金) 申込者なし 中止
 12月15日(月) 受講者3人 ※講座終了後、2人登録

ク. 保育ボランティア養成講座

保育ボランティア活動を始めるにあたり、必要な知識や心構えを習得するための養成講座を開催した。

開催日 5月22日(木)、29日(木)、6月5日(木) 全3回
 内容 乳幼児の特性とコミュニケーション方法、手遊び・読み聞かせ、保育ボランティアの体験談など
 受講者 12人(延べ35人)
 登録者数 7人

ケ. 専門ボランティア養成講座(社会福祉基金事業)

福祉を理解し実際の活動のきっかけとなることを目的に、ボランティアグループが専門性の高い内容の講習を行った。講座終了後は主催団体へ入会するなど専門ボランティアのすそ野を広げることができた。

(ア) 初心者向けボランティア養成講座を7団体で9講座を開催した。

助成額 334,000円

主催	講座	開催回数	参加者	延べ人数	助成額
平塚点訳 赤十字奉仕団	点訳 基礎講習会	5回	6人	28人	104,000円

	拡大 図書講習会	4 回	2 人	8 人	
手話サークル 七夕会	初心者 手話講習会	5 回	23 人	98 人	38,000 円
	初心者 手話講習会	5 回	16 人	74 人	
手話サークル 平の会	初心者入門 手話講習会	6 回	16 人	83 人	38,000 円
要約筆記サー クルひらつか	手書き要約筆記入 門講習会	6 回	5 人	25 人	48,000 円
平塚音訳 赤十字奉仕団	録音図書作成のための 音訳初級講習会	5 回	9 人	25 人	38,000 円
神奈川県傾聴 赤十字奉仕団	傾聴ボランティア 養成講座	3 回	38 人	92 人	30,000 円
精神保健福祉ボラ ンティアグループ こんぺいとう	精神保健福祉ボラ ンティア養成講座	3 回	29 人	66 人	38,000 円

コ. 福祉学習、研修事業

高齢者や障がい者等への接し方を学び、福祉の心を育むため、小・中・高等学校、地区社協などにボランティア活動や体験学習（車いす操作方法体験、高齢者疑似体験、点字体験、誘導法体験、手話体験、盲導犬への理解、視覚障がい者の講話、車いすバスケット体験、認知症サポーター養成講座、災害学習等）の講師等として協力した。

体験学習実施	学校数	人数	講師人数
小学校（対象数 28 校）	20 校	4,162 人	258 人
中学校（中等教育学校を含む）（対象数 16 校）	10 校	2,370 人	120 人
高等学校・特別支援校	1 校	363 人	15 人
平塚市・専門学校・地域等（出張ボランティアスクール）	17 件	979 人	67 人
合 計	48 件	7,874 人	460 人

（ア）福祉学習担当者説明会

市内小、中、高等学校、特別支援学校の福祉学習担当教員を対象に福祉学習の説明会を開催した。

開催日 ① 6 月 27 日（金） ② 7 月 25 日（金）

参加者 ① 17 校 18 人 ② 5 校 5 人

サ. 点訳、音訳奉仕団助成事業（社会福祉基金事業）

平塚点訳赤十字奉仕団 助成額 85,000 円

平塚音訳赤十字奉仕団 助成額 10,000 円

シ. 視覚障がい者支援 音訳ライブラリー整備事業（社会福祉基金事業他）

70,000 円

ス. ボランティア保険の取扱い

ボランティア活動保険 個人 62 件 62 人（うち被災地支援 19 件 25 人）

団体 111 件 2,274 人（うち被災地支援 8 件 8 人）

ボランティア行事用保険 122 件 34,592 人

送迎サービス補償 4 件（個人 0 件 団体 4 件）

福祉サービス総合補償 3 件

(3) ボランティアグループ助成事業

ア. ボランティアグループ活動助成（社会福祉基金事業）

当年度実績

38 グループ（市域 18・地域 20）

助成額 1,936,680 円

〔前年度実績〕

38 グループ（市域 17・地域 21）

助成額 1,938,680 円

イ. 平塚ボランティア連絡会へ助成（社会福祉基金事業）

助成額 170,000 円

ウ. ボランティアグループ等活動補助金説明会

開催日 5月8日（木） 午前・午後の2回開催

参加者 24人

(4) 小泉基金福祉活動助成事業

ア. ボランティア啓発育成（小泉基金事業）

助成学校数 合計 16校

内訳：小学校 6・中学校（中等教育学校含む） 7・高等学校 2・特別支援学校 1

助成額 947,824 円 〔前年度 806,270 円〕

助成内訳

①学校・学年単位の助成 14件 564,771 円

②テーマ・企画に対する助成 3件 95,924 円

③学校と地域の連携事業助成 6件 287,129 円

イ. 福祉の学びの場

実施地区社協 22地区 1,069,184 円

ウ. 教材購入費 172,418 円

ア～ウ 合計 2,189,426 円

(5) 災害時ボランティア事業

ア. 災害支援に関わる事業

（ア）ボランティア養成講座（災害時編）

災害ボランティアとして必要な知識を学び災害発生時に活躍できる方、災害ボランティアセンターにて活動出来る方の養成を目指し開催した。

開催日 12月6日（土）、12月13日（土）

受講者 5人 延べ9人

（イ）災害ボランティアセンター設置運営訓練（実務者編）の実施

関係団体を集めて実務者を対象とした訓練を初めて行った。

内 容 災害ボランティアセンターにおける被災場所の現地調査の手法について
災害支援活動における ICT 活用について

発電機の試運転、寄贈物品の乾湿掃除機及び排水ポンプの体験

開催日 2月14日（土）

参加者 44人（関係団体）

（ウ）他団体の訓練、研修、フォーラム等へ参加、協力

・平塚市総合防災訓練への参加

開催日 10月18日（土）

会 場 平塚市総合公園平塚はらっぱ周辺

- 内 容 被災地での活動紹介、災害ボランティア募集啓発、車いすでの搬送体験、ボランティア活動保険の啓発・紹介
- ・第15回ひらつな祭への参加
 - 開催日 3月8日(日)
 - 会 場 紅谷パールロード、まちかど広場周辺
 - 内 容 被災地での活動紹介、災害ボランティア募集啓発、車いすの操作法体験、ボランティア活動保険の啓発・紹介
 - ・災害ボランティアセンター運営研修（ICT活用研修）
 - 開催日 7月22日(火)
 - 会 場 神奈川県社会福祉協議会
 - 参加者 本会職員2人
 - ・災害ボランティアセンターマネジメント研修（全国社会福祉協議会主催）
 - 開催日 12月1日(月)、2日(火)
 - 会 場 全国社会福祉協議会
 - 内 容 「災害ボランティアセンター運営マネジメント」他
 - ・防災ネットワーク推進に向けた防災座談会（ひらつか市民活動支援センター主催）
 - 開催日 9月20日(土)
 - 会 場 ひらつか市民活動センター
 - ・座間市災害ボランティア設置運営訓練見学
 - 開催日 10月4日(土)
 - 会 場 座間市社会福祉協議会
 - 参加者 本会職員2人
 - ・かながわ災害救援ボランティア支援自治体ネットワーク会議
 - 開催日 11月12日(水)
 - 会 場 かながわ県民センター
 - 参加者 本会職員1人
 - ・県・市町村ボランティアセンター間情報伝達訓練
 - 開催日 12月11日(木)
 - 会 場 ボランティア活動室（オンライン参加）
 - 参加者 本会職員2人、災害ボランティア代表1人

(6)自主事業

ア. 企業、団体、個人の方から物品の寄付を受け、必要な施設等に配布した。

・寄付者

法人・団体等5件、企業3件、個人39件

寄付者	寄付物品
(公社)神奈川県下水道公社	非常食(缶詰)
平塚ビルメンテナンス業協同組合	非常食(乾パン)
平塚遊技場組合	プロレス観戦チケット
自治会	焼き鳥パック等
平塚なでしこライオンズクラブ	洋服類等
(株)サイトウミート	冷凍しゅうまい
(株)創	プロレス観戦チケット
(株)老郷	わかめ、ラー油
個人 39件	紙オムツ、リハビリパンツ、尿取りパッド、靴、ティッシュ、毛糸、お米、食品等

・主な配分先

子ども食堂・学習支援団体、平塚市社会福祉協議会福祉施設部会、くらしサポート、平塚市福祉会館、子育て支援センター、障がい者支援施設

イ. 車いすの貸出し

平塚市在住の方へ介護保険や障害者手帳の申請期間のつなぎ、病院の一時的な通院などのために車いすの貸出しを行った。

保有台数		14 台
貸出件数	延べ	139 件
貸出日数	延べ	3,357 日
利用料金	合計	56,500 円

ウ. 啓発パネル・DVDの貸出し

地域福祉の推進を図るため、啓発用のパネルやDVDの貸出しを行った。

啓発パネル	1 件	〔前年度 1 件〕
DVD	4 件	〔前年度 6 件〕

(7)障がい児等移送サービス事業

- ・ボランティアの協力による障がい児等移送サービス事業（社会福祉基金事業）

平塚市障がい者自立支援協議会において検討された何らかの理由で通学が困難な障がい児を対象に、運転ボランティアの協力による特別支援学校等への登下校の移送サービスを実施した。車両は、平塚市から譲渡された「ふくふく号」を使用した。

利用者	3 人（県立平塚支援学校 1 人、県立湘南支援学校 2 人）
稼働日	197 日
運転ボランティア	7 人

3. 援護事業

(1)生計困難世帯援護事業

ア. 要援護世帯等の慰問金

夏期と年末に生計困難世帯に対して慰問金を贈呈した。

夏期慰問金（社会福祉基金事業）	金額	件数	合計
1 人世帯	5,000 円	34 世帯	170,000 円
2 人以上世帯	10,000 円	352 世帯	3,520,000 円
合 計		386 世帯	3,690,000 円
年末慰問金（年末募金配分事業）	金額	件数	合計
1 人世帯	5,000 円	41 世帯	205,000 円
2 人以上世帯	10,000 円	347 世帯	3,470,000 円
合 計		388 世帯	3,675,000 円

イ. 小・中学校入学祝金及び入学準備補助、中学校卒業祝金（社会福祉基金事業）

生計困難世帯の小・中学校入学児童・生徒へ祝金と学生服の購入補助をした。なお、前年度に続き感染症の影響を考慮し、祝金を 10,000 円増額した。

区分	祝金	被服購入費助成	人数	合計
小学校入学	20,000 円	10,000 円	13 人	390,000 円
中学校入学	20,000 円	20,000 円	37 人	1,480,000 円
中学校卒業	20,000 円		38 人	760,000 円
合 計			88 人	2,630,000 円

ウ. 修学旅行等支度費補助（年末募金配分事業）

生計困難世帯の支援を目的として、小学 6 年生と中学 3 年生の修学旅行等支度費の一

部を助成した。

区分	支度費	人数	合計
小学6年生	5,000 円	22 人	110,000 円
中学3年生	10,000 円	33 人	330,000 円
合 計		55 人	440,000 円

(2) 激励金見舞金支給事業

ア. 遺児等援護事業

(ア) 交通遺児等激励金（交通遺児等福祉基金事業）

交通事故のため保護者が死去、または重度障害を負った世帯の 18 歳以下の子に対し、激励金を支給した。

区分及び単価	件数	支給合計
18 歳以下の遺児等に年 1 回 激励金(1 人 15,000 円)を支給	2 世帯 3 人	45,000 円

(イ) 一般遺児激励金（年末募金配分事業）

病死等で保護者が死去した世帯の 18 歳以下の子に対し、激励金を支給した。

区分及び単価	件数	支給合計
18 歳以下の遺児に年 1 回 激励金(1 人 15,000 円)を支給	47 世帯 65 人	975,000 円

(3) 寝たきり高齢者等慰問事業（社会福祉基金事業）

在宅の寝たきり高齢者（要介護度 4・5）及び、身体障害 1・2 級で在宅生活されている方対象に尿とりパッド・ウェットティッシュのセットを支給した。

年 2 回（8 月 117 人、2 月 110 人） 計 227 人

(4) 障がい児者支援事業

ア. 障がい児と保護者の慰安激励と交流を目的とし、「夢を育むレクリエーション！ボールで楽しむファミリー交流会」開催した。（赤い羽根募金配分事業）

開催日 3 月 15 日（日）

場 所 ひらつかサン・ライフアリーナ

参加者 26 人（8 世帯）

協 力 （一社）INCLUSIVE HUB SHONAN

イ. 福祉事業所合同説明会・見学会実行委員会の「福祉事業所一覧」発行費用として助成した。（赤い羽根募金配分事業） 100,000 円

(5) 点字図書購入費助成事業

ア. 点字図書購入費助成（社会福祉基金事業）

視覚障がい者（1・2 級）に点字図書購入費の一部を助成した。

1 件 13,000 円

イ. 録音・点字図書等の貸出事業

視覚障がい者の教養娯楽に供するため、点訳・音訳赤十字奉仕団の協力により各種録音図書及び点字図書の作成をした。

・受入数 録音図書（デージー・CD） 17 タイトル 17 枚

- ・保有数

点字図書	19 タイトル	46 冊
録音図書（デージー・CD）	316 タイトル	324 巻
点字図書	434 タイトル	1,624 冊
- ※デージーの貸出については、視覚障がい児者に限る。

・貸出状況

	区 分	利用人数(延べ)	貸出巻数
録音 CD デージー	定期刊行物	944 人	944 巻 (内訳：声の広報625、議会だより 67、ラジオ深夜便 252、しおさい0)
	図書（デージー）	2 人	6 巻
	合 計	946 人	950 巻
点字図書	定期刊行物 (てんぴつ)	159 人	159 巻
	図 書	46 人	134 巻
	合 計	205 人	293 巻

(6)ひとり親世帯支援事業

ひとり親世帯の慰安激励と交流を目的とし、「親子でいちご狩り！」を障がい児者世帯支援事業と合同で企画した。（赤い羽根募金配分事業）

開催日 2月8日（日） ※降雪のため中止

場 所 原農場いちご園

参加者（申込者） 19 人（6 世帯）

4. 子育て援助活動支援事業

(1)ファミリー・サポート・センター事業

地域において育児の支援を受けたい人で行いたい人を会員として組織化。支援活動を通じ、安心とゆとりをもって子育てができる環境を作ることを目的として実施した。

ア. 実施施設 福祉会館（ファミリー・サポート・センター）

イ. 開設日 242 日 〔前年度 242 日〕

ウ. 会員数

	当年度 会員証発行	前年度 会員証発行	会員数 年度末現在
延べ会員数	133 人	135 人	1,026 人
支援会員	18 人	26 人	282 人
依頼会員	114 人	109 人	736 人
うち、支援会員と 依頼会員の両方の会員	1 人	0 人	8 人

※上記「会員数」は、平成15年度からの累計数から退会者数を除いた人数。

※元気応援ポイント説明会に出席し、参加者へ支援会員について説明したところ、2人の支援会員講習会の参加につながった。

エ. 問合せ件数 延べ 3,991 件 〔前年度 3,958 件〕

オ. 事前、顔合せ件数 延べ 177 件 〔前年度 171 件〕

カ. 活動件数 延べ 4,157 件 [前年度 4,012 件]

キ. 活動内容

項 目	当年度	前年度
保育所・幼稚園への送迎及び預かりにかかる支援	1,772 件	1,989 件
子どもの習い事等の場合の援助	843 件	773 件
障がいを持つ子どもに関わる援助 (R7 項目新設)	320 件	—
保護者等の短時間・臨時的就労・求職活動中等の場合の援助	282 件	280 件
学童保育開始前に関わる援助 (R7 項目新設)	211 件	—
保護者等と一緒に子どもの援助	171 件	64 件
他の子どもの世話や用事のための場合の援助	140 件	334 件
保護者等の病気、その他急用の場合の援助	114 件	118 件
小学校、学童保育等への送迎及び預かりにかかる支援	107 件	267 件
家事を済ませるための援助	100 件	29 件
保護者等の休息時の援助	55 件	20 件
保護者等の外出する場合の援助	24 件	7 件
保育所・学校等休み時の援助	15 件	21 件
保護者等の冠婚葬祭による外出、他の子どもの学校行事の場合の援助	0 件	0 件
放課後デイサービス	—	107 件
その他	3 件	3 件
合 計	4,157 件	4,012 件

※当年度における障がい児支援は、「障がいを持つ子どもに関わる援助」の項目にすべて集約している。

※前年度における障がい児支援は、各項目の件数に内数として含めている。

ク. 研修会等

(ア) 支援会員講習会 (補講者含む)

第 1 回 6 月 1 1 日 (水) 18 人
6 月 1 2 日 (木) 12 人
6 月 1 3 日 (金) 16 人
第 2 回 1 1 月 4 日 (火) 11 人
1 1 月 5 日 (水) 11 人
1 1 月 6 日 (木) 6 人

(イ) 支援会員フォローアップ研修・交流会

開催日 1 月 2 3 日 (金)

内 容 幼児救命講習 (赤十字奉仕団)、交流会

参 加 支援会員 6 人、依頼会員 0 人

IV. 平塚栗原ホーム介護拠点区分

1. 日常生活自立支援事業

(1) 事業内容

認知症や知的・精神障がい等により、金銭や書類等の管理が難しい状況にある高齢者や障がい者等の権利を守り、安心して生活を送れるようにすることを目的として支援した。

(2) 相談援助活動

内 訳	当年度	前年度
電話相談（新規相談、新規継続）	213 件	228 件
電話相談（利用者）	2,494 件	2,300 件
その他（来所相談・関係機関等からの問い合わせ等）	138 件	140 件
合 計	2,845 件	2,668 件

(3) 契約件数

・実利用者数（年度末時点）68 人 〔前年度末 77 人〕
 内訳：新規契約 7 人 〔前年度 12 人〕
 解約・終了 16 人 〔前年度 25 人〕 ※契約年度内解約 0 人

内 訳 （年度内のべ契約件数）	①福祉サービス利用援助 ・日常的な金銭管理サービス	②書類等 預かり	契約件数
高齢者（虚弱、認知症等）	23 件 〔41 件〕	6 件 〔5 件〕	29 件 〔46 件〕
知的障がい者	12 件 〔14 件〕	5 件 〔4 件〕	17 件 〔18 件〕
精神障がい者	27 件 〔39 件〕	7 件 〔9 件〕	34 件 〔48 件〕
身体障がい者	6 件 〔 6 件〕	0 件 〔0 件〕	6 件 〔 6 件〕
そ の 他	0 件 〔 0 件〕	0 件 〔0 件〕	0 件 〔 0 件〕
合 計	68 件 〔100 件〕	18 件 〔18 件〕	86 件 〔118 件〕

※〔 〕は、前年度実績

※件数は個人を単位とし①②のサービスごとに契約数を計上している。

(4) 訪問活動

ア. 専門員等の訪問調査活動 延べ 49 回

イ. 生活支援員の訪問及び活動 延べ 1,268 回（専門員代行分含む）

(5) 事務局内カンファレンス

ア. 開催件数 32 件 （契約 32 件、契約に至らず 0 件）

イ. 審査内容

対象者 項 目	認 知 症 高齢者等	知 的 障がい者	精 神 障がい者	身 体 障がい者	その他 ・不明	合 計
審査（契約・解約・支援計画等）	16 件	5 件	10 件	1 件	0 件	32 件
相談・助言・その他	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合 計	16 件	5 件	10 件	1 件	0 件	32 件

2. 特定相談支援事業

(1) 相談支援事業

ア. 障がい者等からの障がい福祉サービスなどの相談事業等を実施した。

・相談、調査件数

	当年度	前年度
電話相談	661 件	2,203 件
来所相談	2 件	38 件
ケアプラン作成訪問	5 件	440 件
サービス担当者会議	8 件	1 件
その他訪問	9 件	107 件
認定調査	2 件	22 件
合 計	687 件	2,811 件

・計画作成件数

	当年度	前年度
平塚市	9 件	59 件
茅ヶ崎市	0 件	1 件
伊勢原市	0 件	1 件
横浜市中区	0 件	1 件
横浜市南区	1 件	0 件
秦野市	0 件	0 件
三浦市	0 件	1 件
長崎県五島市	0 件	1 件
相模原市南区	1 件	—
合 計	11 件	64 件

・モニタリング作成件数

	当年度	前年度
平塚市	29 件	233 件
茅ヶ崎市	0 件	5 件
秦野市	0 件	0 件
横浜市南区	1 件	3 件
伊勢原市	0 件	2 件
三浦市	0 件	3 件
相模原市南区	3 件	1 件
五島市	0 件	1 件
合 計	33 件	248 件

3. 生活介護事業

(1) 利用実績

障害者総合支援法の利用者のサービス等利用計画に基づいて生活介護事業を実施した。
利用者に対し送迎、食事や入浴（一般浴・特浴）の提供、レクリエーションを実施した。

・利用登録者数

内 訳	当年度	前年度
区分 3	1 人	2 人
区分 4	4 人	6 人

区分5	5人	2人
区分6	28人	26人
合 計	38人	36人

・利用人数

	当年度	前年度
人数（延べ）	3,331人	3,281人
1日平均	12.43人	12.20人
開所日数	268日	269日

(2)年間行事等

季節の行事や創作活動を実施した。

月	内 容	月	内 容
毎月	誕生会	10月	ハロウィン 福祉展出品準備・出展・外出活動 〈創作〉うちわ作り
4月	お花見散策、園芸活動、 外出活動 〈創作〉チューリップ作り	11月	秋のスポーツ大会、展示即売会 準備、紙芝居、 〈おやつ作り〉スイートポテト 〈創作〉クリスマスの飾り作り 地震避難訓練
5月	お楽しみセレクト給食、園芸活 動、屋上散策 展示即売会準備 〈創作〉こいのぼり制作、兜作り	12月	クリスマス準備・クリスマス会、 ゆず湯、展示即売会出品・外出活 動 公園まで散歩 〈創作〉正月用壁飾り作り、 クリスマス飾り作り
6月	夏の展示即売会出品準備・外出活 動、屋上散策、園芸活動、七夕準 備	1月	成人式、正月遊び、紙芝居 〈創作〉成人式の飾り作り 絵馬作り
7月	七夕飾り・短冊作り 〈おやつ作り〉アイスクリームパ フェ 〈創作〉折り紙(鶴)	2月	節分豆まき、 公園まで散歩 (おやつ作り)桜餅
8月	ミニ夏祭り	3月	火災避難訓練 屋上散策
9月	ミニ運動会、福祉展作品作り		

・福祉事業所説明会へ参加 相談件数 10件

・展示即売会へ出品

6月26日（木）～6月27日（金）（2日間）

リボン、シュシュ、カード、リース、絞り染め手提げ、布袋、カップ、小物入れ

12月10日（水）～12月12日（金）（3日間）

くりのすけカレンダー、くりのすけクリアファイル、リボン、シュシュ、クラフトテープリース

・展示即売会外出活動

4月18日（金）（2人）

6月26日（木）（2人） 6月27日（金）（2人）

12月11日（木）（1人） 12月12日（金）（2人）

・社会福祉展へ出展

10月23日（木）～10月28日（火）（5日間） 壁面画、小物入れ、トレー

- (10月27日(月)を除く)
- ・社会福祉展外出活動
10月23日(木) (2人) 10月24日(金) (3人)

(3)実習及びボランティアの受入れ

ア. 実習(職場体験)受入れ

受入日数	延べ 30 日	
受入人数	延べ 101 人	
・ 江陽中学校	1 日間	2 人
・ 県立平塚看護大学校	16 日間	80 人
・ 湘南平塚看護専門学校	5 日間	10 人
・ 東海大学	3 日間	4 人
・ 神奈川社会福祉専門学校	2 日間	2 人
・ 田園調布学園大学	2 日間	2 人
・ 聖徳大学	1 日間	1 人

イ. ボランティアの受入れ

受入日数	延べ 197 日	
受入人数	延べ 260 人	
・ 一般	156 日間	159 人
・ 訪問マッサージ	60 日間	60 人
・ パソコン	40 日間	40 人
・ 演芸	1 日	1 人

V. 豊田分庁舎拠点区分

1. 地域子育て支援拠点事業

(1) 子育て支援センター事業

子育て家庭の育児不安等についての相談対応・情報の提供、子育てサロン（交流の場）の運営及び子育てサークル等への支援、並びに地域のニーズに応じて子育て支援関連機関との連携等により、育児支援を行った。

ア. 実施施設 豊田分庁舎（子育て支援センター）

イ. 開設日 243 日 〔前年度 242 日〕

ウ. 利用状況

- ・利用総数 延べ 12,665 人（相談、視察等含む）〔前年度 12,363 人〕
- ・来所者 延べ 12,308 人（交流広場利用者数）〔前年度 11,977 人〕
- ・相談者数 延べ 1,054 人 〔前年度 1,499 人〕
- ・育児相談延件数 延べ 1,476 件 〔前年度 2,079 件〕
- ・育児相談の内容

分類項目	相談内容	延べ件数	相談内容	延べ件数
a 基本的生活習慣 293 件	睡眠	88 件	食事	136 件
	排泄	39 件	着脱	7 件
	清潔	18 件	その他	5 件
b 発育・発達 279 件	運動	4 件	身体の発育	46 件
	言葉	43 件	社会性	59 件
	癖	13 件	問題行動	91 件
	その他	23 件		
c 育児方法 209 件	関わり方	103 件	教育	9 件
	健康	39 件	育児不安	48 件
	その他	10 件		
d 生活環境 695 件	友達	5 件	きょうだい	49 件
	家族	89 件	夫婦	105 件
	園・学校	308 件	母の体調	84 件
	その他	55 件		

エ. 活動内容

- ・相談以外の補完的援助 244 件
- ・関係機関との連携・協力等 35 件
- ・会議、研修、視察等の参加 9 件
- ・グループ支援 4 件
- ・出向、訪問等での相談 0 件

- ・スペシャルジョイフルタイム 13 回
- ・わくわくタイム 12 回
- ・おもちゃの病院 12 回 ※福祉村の拠点を借りて開催
- ・わくわくデイ 5 回

VI. くらしサポート拠点区分

1. 生活支援事業

(1) 行旅人旅費支給事業

法外援護として、旅費困窮、行旅病人等緊急援護を必要とする者に援護した。

- ・旅費困窮者救護金 7,500 円 (20 件×300 円、1 件×500 円、1 件×1,000 円)
- ・平塚市民病院対応 10,000 円 (1 件×10,000 円)

(2) 日用品等支給事業

やむを得ない事情で生活が困難な市民に日用品及び食料品等を一時的に支給するとともに、今後の支援のため、食品等を購入して備蓄した。

乳児の養育に必要なものとして準備していた粉ミルク・紙おむつ・おしり拭きは該当者がいなかった。

- ・支給 4 件

(3) 生活支援事業

様々な生活上の困りごとをかかえている方を対象に、関係機関と連携しワンストップの相談体制を整え、問題の解決を図れるよう情報提供や社会資源の紹介をするとともに、適切な相談機関につないだ。

- ・生活支援相談 (月曜日～金曜日) 延べ 36 件

(4) 災害見舞金支給事業

火災や水害で罹災した世帯に見舞金を支給した。

ア. 火災

	件数	県共募(たすけあい 福祉資金配分金)	市社協 (赤い羽根募金配分金)	合 計
全焼(損)	5 件	50,000 円	50,000 円	100,000 円
半焼(損)	0 件	0 円	0 円	0 円
半壊	0 件	0 円	0 円	0 円
水損	0 件		0 円	0 円
死亡	1 件	10,000 円	10,000 円	20,000 円
重症	0 件	0 円	0 円	0 円
合計	6 件	60,000 円	60,000 円	120,000 円

2. 貸付事業

(1) 生活福祉資金

ア. 生活福祉資金

低所得世帯、高齢者、障がい者の世帯からの相談を受け、自立更生、生活安定を図るため、必要な助言・指導を行うとともに、申請の取り次ぎを行った。

・総合支援資金

種 類	件数（件）	決定金額（円）
生活支援費	0	0
住宅入居費	0	0
一時生活再建費	0	0
合 計	0	0

・福祉資金

種 類	当年度	前年度
住居の移転等給排水設備等に必要な経費	1 件 265,000 円	1 件 335,000 円
その他日常生活上一時的に必要な経費	9 件 886,000 円	5 件 516,000 円
技能習得費及び技能習得支度費	0 件 0 円	1 件 528,000 円
緊急小口資金	5 件 500,000 円	3 件 300,000 円
合 計	15 件 1,651,000 円	10 件 1,679,000 円

・教育支援資金

種 類	当年度	前年度
教育支援費及び就学支度費	13 件 8,199,000 円	16 件 7,642,000 円

・不動産担保型生活資金

種 類	当年度	前年度
一般向け	1 件	0 件
要保護世帯向け	0 件	0 件
合 計	1 件	0 件

- ・生活福祉資金貸付調査委員会
役割終了により廃止した。

イ. 臨時特例つなぎ資金

解雇や雇い止め等により、住宅を喪失し、その後の生活維持が困難である離職者等で、公的給付制度等の申請から決定までの生活費を有しない者に対し、生活に必要な費用の貸付けについての相談・申請支援を行う事業であるが、該当者がいなかった。

貸付件数 0 件 〔前年度 0 件〕

(2)一時貸付金

- 前年度貸付残高 336,000 円
- 当年度貸付金額 延べ 17 件 312,000 円
- 償還額 延べ 27 件 365,000 円（うち完済 18 件 302,000 円）
- 償還免除（欠損処分） 1 件 10,000 円 ※死亡により
- 当年度末貸付残高 273,000 円（うち 1 年以上経過 7 件）

3. 生活困窮者自立相談支援事業

生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的かつ継続的な相談支援及び地域における自立、就労支援等の体制を構築することにより、生活困窮者の自立を促進することを目的に事業を実施した。

窓口名称を「くらしサポート相談」とし、平塚市役所本館 1 階福祉総務課内に設置した相談窓口にて、貸付事業や援護事業と連携し、相談支援及び就労支援を行った。

(1)くらしサポート相談（自立相談支援事業）の運営

ア. 事業の広報

生活困窮者自立支援制度普及広報用「生活困窮者への支援を行うくらしサポート相談にご相談ください。」のチラシ及びカードを、市役所・福祉会館はじめ市内公園トイレ等に配架し周知に努めた。

イ. 会議への参加（1 回）

- ・ 2 月 1 8 日（水） ホームレス自立支援に関する意見交換会

ウ. 関係機関からの要請による制度や相談窓口に関する説明等の実施（1 回）

- ・ 1 2 月 1 6 日（火） 平塚地区保護司会合同研修会

(2)相談件数 [] 内は前年度件数

ア. 初回相談受付件数		392 件	[309 件]
イ. 継続相談件数		延べ 5,588 件	[4,872 件]
ウ. プラン作成数	初回プラン	140 件	[139 件]
	再プラン	延べ 73 件	[70 件]
エ. 自立相談支援事業による就労支援		延べ 44 件	[52 件]
	うち、就労支援による一般就労開始及び就労収入増加	11 件	[28 件]
オ. 住居確保給付金の支給対象者（新規支給決定件数）		4 件	[8 件]
カ. 訪問相談及び同行支援（アウトリーチ）		延べ 600 件	[548 件]
キ. ケース会議		延べ 13 件	[43 件]

(3)支援調整会議

相談者（本人）と相談支援員の協働により作成したプランを基に目標や支援内容を協議し支援方針を共有した。

ア. 定期開催（平塚市）	12 回	延べ 181 件	対象者 145 人
（就労準備支援事業）	12 回	延べ 124 件	対象者 7 人

イ. 随時開催

認定就労訓練事業	2 回	延べ 2 件	対象者 2 人
一時生活自立支援事業	1 回	延べ 1 件	対象者 1 人
家計改善支援事業	51 回	延べ 108 人	対象者 25 人

(4)生活困窮者自立相談支援事業連携機関連絡会

関係機関に平塚市における生活困窮者自立支援事業の取り組み状況を報告し、さらなる連携を促進するために各機関からのアンケートを踏まえて情報交換会を開催した。

開催日 3 月 3 0 日（月）

場 所 平塚市保健センター 講堂

参加数 関係機関 15 か所 参加者 16 人
参加機関 平塚市高齢者よろず相談センター（3 か所）、
医療機関（2 か所）、ライフサポート事業所（1 か所）、
就労準備支援事業所（3 か所）、認定就労訓練事業所（2 か所）、
障がい者相談事業所（2 か所）、平塚市障がい福祉課、
平塚公共職業安定所、平塚市地域包括ケア推進課、
平塚市社会福祉協議会 CSW

(5)ホームレス巡回相談

生活困窮者自立支援法の趣旨及び理念を踏まえつつ、基本的に新法に基づく生活困窮者自立支援事業として巡回相談を実施した。

- ・巡回訪問件数 延べ 274 件 実人数 40 人
- ・巡回実施回数 定期巡回 24 回（夜間巡回 1 回含む）
※うち 4 回は、（福）恩賜財団済生会湘南平塚病院と合同巡回を実施
- ・緊急巡回回数 緊急対応 5 回

(6)食糧等支援

何らかの理由で公的給付を受けることが困難な者や、緊急の支援を必要と認める者に対し、フードバンク湘南との連携による支援を行った。また、フードバンクかながわからの食品や閉店したコンビニエンスストアの寄付物品（神奈川県社会福祉協議会経由）など提供された食糧を支援に役立てた。

- ・支援件数 延べ 106 件（前年度 126 件）

事業区分：公益事業

I. 福祉社会館拠点区分

1. 介護者支援事業

(1) 元気応援ポイント事業

ア. ひらつか元気応援ポイント事業

管理機関として元気応援ポイント説明会を実施し、元気応援会員登録や手帳発行、交付金支給等の事業を実施した。

(ア) 説明会 原則毎月1回実施 合計 13回
開催場所 福祉社会館、南部福祉社会館、西部福祉社会館、保健センター、金田公民館、岡崎公民館、美術館

(イ) 説明会参加者 延べ 93人

(ウ) 元気応援会員 新規 112人 手帳所持人数 224人

(エ) ポイント換金 107人 現金 304,300円
元気応援セット 40,983円
スターライトマネー 23,800円

(オ) 研修会

元気応援ポイント会員の介護予防につながる内容と元気応援活動者の活動紹介を行った。

a. 「元気応援活動にちょっと役立つ傾聴のお話」

開催日	開催場所	参加人数
8月4日(月)	福祉社会館	22人

b. 「椅子ヨガで体すっきり、元気に健康アップ！」

開催日	開催場所	参加人数
11月14日(金)	福祉社会館	19人

(2) 家族介護リフレッシュ事業

平塚市在住、在勤で自宅または入所先等で要介護1～5の家族を介護している方を対象に、介護疲れを解消するため、視覚障がい者のあん摩・マッサージ師の有資格者による「腰痛肩こり予防プログラム」を実施した。

開催場所	福祉社会館	湘南バンク 港ベイサイド ホール	西部福祉社会館	リフレッシュ プラザ	合計
開催回数	52回 〔55回〕	15回 〔15回〕	15回 〔15回〕	15回 〔15回〕	97回 〔100回〕
参加人数	336人 〔349人〕	61人 〔76人〕	82人 〔99人〕	49人 〔52人〕	528人 〔576人〕
講師人数	161人 〔167人〕	30人 〔30人〕	37人 〔43人〕	27人 〔29人〕	255人 〔269人〕

〔 〕は前年度の実績

- ※ 今年度は、南部福祉会館が工事のため、湘南バンク港ベイサイドホールを借用して実施した。
- ※ 7月30日に津波警報が発令されたが、安全に配慮して実施した。9月5日、福祉会館での開催は、台風の影響で中止した。

Ⅱ. 平塚栗原ホーム拠点区分

1. 法人後見事業

(1) 事業内容

平成24年10月から成年後見人等として成年後見制度に基づく高齢者や障がい者等の身上保護や財産管理を本会が法人として担い、権利擁護を図ることを目的として法人後見事業（ひらつかあんしんセンター）を実施した。

(2) 相談援助活動

問い合わせ、相談件数（総数） 1,440 件 〔前年度 1,185 件〕

	当年度	前年度
法人後見事業に関するもの（日常支援）	1,401 件	1,083 件
関係機関等からの問い合わせ等	32 件	92 件
後見人等の依頼相談（ケース相談）	7 件	10 件

(3) 受任件数、後見人等候補者依頼件数

ア. 受任件数（年度末時点） 37 人

内 訳	後 見	保 佐	補 助	受任件数
認知症高齢者	20 人〔24 人〕	4 人〔4 人〕	1 人〔1 人〕	25 人〔29 人〕
知的障がい者	4 人〔4 人〕	0 人〔0 人〕	0 人〔0 人〕	4 人〔4 人〕
精神障がい者	7 人〔7 人〕	1 人〔1 人〕	0 人〔0 人〕	8 人〔8 人〕
合 計	31 人〔35 人〕	5 人〔5 人〕	1 人〔1 人〕	37 人〔41 人〕

〔 〕 は、前年度実績

イ. 後見人等候補者依頼件数 2 件

市長申立て依頼 2 件、本人申立て依頼 0 件、家族申立て依頼 0 件

(4) 訪問活動

専門員等の訪問調査、活動（支援関係） 延べ 802 回

(5) 法人後見事業審査会兼ひらつかあんしんセンターあり方検討委員会

ア. 開催回数 12 回

イ. 審査内容（単位：件）

対象者 項 目		認知症 高齢者等	知的 障がい者	精神 障がい者	その他・ 不明	合計
審査 内容	審査 （新規案件）	2 件	0 件	0 件	0 件	2 件
	相談・助言 （家裁案件）	29 件	4 件	8 件	0 件	41 件
	終了（死去等）	8 件	0 件	0 件	0 件	8 件
	その他	0 件	0 件	0 件	3 件	3 件
合 計		39 件	4 件	8 件	3 件	54 件

(6)市民後見人の養成

平成26年度から市民後見人としての受任を目指し、市民後見人養成講座（実践研修）を修了した者を、後見支援員として雇用した。 後見支援員 18人

ア. 後見支援員全体会（研修及び情報交換） 6回

イ. 後見支援員による支援活動 32回

2. 居宅介護支援事業

(1)事業内容

ケアマネジャーが利用者の心身の状況や置かれている環境に応じた介護サービスを利用するためのケアプランを作成し、事業者や関係機関との連絡調整を行った。

ア. 開所時間 平日8:30~17:00（夜間、土日祝日は24時間体制）

イ. 開所日数 243日〔前年度 243日〕

(2)ケアプラン作成等

高齢者等を対象に介護保険サービスなどの相談やケアプラン作成等を実施した。

ア. 相談、調査件数

内訳	当年度	前年度
電話相談	6,104件	5,241件
来所相談	55件	69件
ケアプラン作成訪問	1,692件	1,899件
申請代行訪問	62件	75件
その他訪問	928件	749件
サービス担当者会議	364件	248件
合 計	9,205件	8,281件

イ. ケアプラン作成件数 年間延べ 要支援106件、要介護1,861件

内訳	当年度	前年度
要支援	73件	106件
要介護1	528件	474件
要介護2	474件	567件
要介護3	316件	317件
要介護4	220件	249件
要介護5	153件	254件

ウ. 要介護認定調査

内訳	当年度	前年度
平塚市より委託	77件	67件
市外より委託	2件	1件

(3)特定事業所としての活動

ア. 加算会議（週1回）、定例会議の開催

困難ケースの検討、制度やケアマネジメント技術の確認等を行った。

イ. 市内居宅介護支援事業所合同研修会の開催 年2回

他の事業者と合同で開催した。 参加3事業所 延べ人数20人

ウ．職員の外部研修会への参加

ひらつか地域介護システム会議の居宅介護支援事業所連絡会や地域包括支援センター主催の事例検討会等に出席した。 年 6 回

3. 地域包括支援センター事業

(平塚市高齢者よろず相談センターゆりのき)

(1)事業内容

地域の高齢者が可能な限り自宅で日常生活を続けられるようにするため、高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援した。

高齢者よろず相談センターゆりのきは、崇善地区と松原地区を担当し、地区内の高齢者の総合相談、権利擁護や地域の支援体制づくり、介護予防等の必要な支援を実施した。

(2)総合相談

ア．相談形態

内訳	当年度（速報値）	前年度（確定値）
来所相談	157 件	136 件
電話相談	1,869 件	1,617 件
訪問相談	511 件	446 件
メール	12 件	15 件
その他	68 件	35 件
相談総数（延べ）	2,617 件	2,249 件

イ．相談内容

内訳	当年度（速報値）	前年度（確定値）
介護保険（介護予防含む）	1,449 件	1,270 件
認知症（疑い）	461 件	255 件
精神疾患（疑い）	62 件	116 件
虐待（疑い） （高齢者虐待関係）	94 件	80 件
権利擁護関係	136 件	85 件
保健・医療	193 件	237 件
経済苦	49 件	64 件
行政サービス（在宅高齢者福祉サービス）	22 件	22 件
民間サービス	28 件	18 件
高齢者調査	25 件	28 件
消費者問題	8 件	2 件
安否確認	45 件	33 件
家族・介護者問題	22 件	8 件
近隣問題	5 件	2 件
重層（複合）	1 件	2 件
その他	17 件	27 件

※ 民間サービス、安否確認、家族・介護者問題、近隣問題、重層（複合）は、令和 6 年度から新たに項目追加したもの。

(3)居宅介護支援専門員への支援

・ 困難事例を抱える介護支援専門員への対応等	33件
・ 地域内ケアマネジャーとの交流会・研修会・事例検討	2件
・ 居宅介護支援事業所訪問	7件

(4)医療機関等との連携

ア. サポート医訪問 延べ 7件

イ. 在宅支援拠点薬局訪問 延べ20件

(5)地域ケア会議、個別ケア会議

ア. 地域ケア会議 8回
※松原地区は地域ケア会議と協議体会議を一体化して開催

イ. 個別ケア会議 3回
※ケースカンファレンスは22回開催

(6)担当地域内の各種会議等の出席状況

ア. 地区民生委員児童委員協議会定例会 8回

イ. 自治会・地区社協定例理事会 3回

ウ. 町内福祉村定例理事会（協議体含む） 4回

エ. 地域包括支援センター連絡会 56回（書面、オンラインを含む）
（管理者連絡会、地域支援担当者連絡会、主任ケアマネ連絡会、介護予防事業連絡会、
認知症地域支援推進員等）

オ. 地域のインフォーマルサービス関係 21回
（地域のサロン等含む）

カ. 事業所運営推進会議 10回

(7)ゆりのき予防サロン

・ 開催数 37回 参加者延べ 826人

(8)認知症サポーター養成講座

一般向けの講座以外に金融機関や崇善地区社協からの依頼で認知症サポーター養成講座を実施した。

ア. 認知症サポーター養成講座
・ 開催数 5回 参加者 延べ 88人

イ. 認知症サポーター上級研修
・ 開催数 1回 参加者 16人

(9)ゆりのきオレンジカフェ（認知症カフェ）

・ 開催数 7回 参加者延べ 96人

(10)ゆりのき通信の発行

- ・発行回数 4回
(崇善・松原地区自治会加入世帯への回覧、医療機関・薬局・公民館等への配布)

(11)民生委員児童委員とケアマネジャーとの交流会

- ・開催数 2回 参加者延べ 50人

(12)実習生の受け入れ、演習・研修対応

- ・受け入れ 5校 延べ26人
神奈川社会福祉専門学校(4日間)
東海大学(3日間)
田園調布大学(2日間)
国際医療福祉大学(3日間)
平塚看護大学校(4日間)

(13)介護予防支援事業所業務

ア. 介護予防ケアプラン

	当年度	前年度
予防給付 (給付管理実績)	2,914件 (うち委託387件)	2,921件 (うち委託373件)

イ. サービス担当者会議(委託分含む) 265回〔273回〕

ウ. 介護認定調査件数 54件〔17件〕

(14)職員のスキルアップ研修

- ・開催 50回 延べ93人
平塚市や県の地域包括支援センター職種別研修会
成年後見制度、任後見制度関係 他

4. 成年後見制度利用支援事業 (平塚後見センターよりそい)

(1)事業内容

判断能力が十分でない人が成年後見制度を的確に利用できるような支援を行うとともに、これらの人の権利を尊重し擁護することにより地域で安心して暮らせるよう、成年後見制度の利用促進を図ることを目的として事業を実施した。

(2) 平塚市成年後見利用支援センターの運営状況

ア. 開所日数 251日(土曜開所日 12日を含む)〔前年度 252日〕

イ. 普及宣伝

- ・福祉だよりひらつかにて広報した。
- ・成年後見制度の講演会の開催、当センター周知等を実施した。

ウ. 会議等

- ・平塚市成年後見支援ネットワーク連絡会（29 団体・機関等） 2 回

エ．企画運営会議 4 回

オ．ケース検討調整会議 10 回

(3)成年後見制度の相談

ア．相談件数

	当年度	前年度
初回相談件数	264 件 (内訳:電話 223 件、来所 38 件、訪問時 3 件)	283 件
継続相談件数	864 件 (内訳:電話 598 件、来所 166 件、訪問時 100 件)	670 件

イ．専門相談

- ・弁護士による専門相談 12回

(4)親族後見人等の後見活動の支援

申立を考えている親族の方や、すでに親族後見人になっている方に対して、セミナー講習会・交流会を開催した。

ア．親族後見予習セミナー 2回 計48人参加

イ．親族後見人講習会・交流会 2回 計41人参加

(5)市民後見人の養成、活動

ア．平塚市権利擁護人材育成講座・市民後見人養成講座

- ・第9期実践研修 全7日間 受講者7人 修了者6人（1人途中で辞退）

イ．後見サポーター（後見支援員・第一期～第八期）活動支援等

- ・後見サポーター全体会（研修及び情報交換） 6 回
- ・市民後見人フォローアップ研修 2 回

(6)成年後見業務に係る関係機関との連携及び情報提供

家庭裁判所、行政機関、神奈川県社会福祉協議会、近隣市町社会福祉協議会等と連携して体制整備を行うとともに、成年後見制度の利用推進を図った。

- ・湘南西部成年後見制度利用支援連絡会 出席 1 回
(幹事社協：秦野市社会福祉協議会)
- ・成年後見制度の利用促進に関する連絡・調整会議（県・県社協主催） 出席1回
- ・市民、関係機関等を対象とした講演会の開催講座 8回 受講者延べ人数310人
(成年後見制度講座・権利擁護講演会・意思決定支援研修等)
- ・出前講座（市民・企業等向け） 10件 受講者延べ人数 144人

5. 高齢者権利擁護応急的事務管理事業

(1)応急的事務管理事業

判断能力が低下し、財産を管理することが困難となった高齢者に対し、生命、健康及び財産の保護を図るため、成年後見人等が選任され法定代理人が財産の管理をするまでの間、

事務管理として実施する費用の立替えを行った。

ア. 応急事務管理会議全体会議

応急的事務管理について、その実施の可否及び方針について意見を聴くための委員を定め、会議を開催した。

・ 3月2日（月） 委員 弁護士4人、社会福祉士3人

イ. 応急的事務管理個別会議

応急的な事務管理の利用ケースがなかったため、未開催。

ウ. 応急的立替払いの実績

応急的な事務管理の利用ケースがなかった。

6. 在宅医療・介護連携推進事業

「地域包括ケアシステム」の一環として、高齢者等が医療と介護が必要となる状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい生活を営むことができるようにするため、「医療」と「介護」の連携を促進していくための窓口となる事業を実施した。

(1) 平塚市在宅医療・介護連携支援センターの運営

ア. 開所日数 242日〔前年度243日〕

イ. 定例会議

平塚市医師会、平塚市地域包括ケア推進課との三者で定例会議を開催し、企画の立案、情報の共有、意見交換等を行った。

今年度は8回（4月のみ対面開催。オンライン開催）

ウ. 平塚市在宅医療介護連携推進協議会で相談・研修開催等の報告を行った。

延べ3回出席 第1回のみ対面出席。オンライン出席

エ. 各種会議への出席

システム会議サービス向上検討部会に出席した。

延べ6回出席

(2) 地域の医療・介護の資源の把握

ア. ひらつか介護サービス（医療対応）一覧を作成

平塚市在宅医療・介護連携支援センターのホームページに掲載。医療機関、平塚市医師会、平塚歯科医師会、平塚中郡薬剤師会、介護サービス事業所、平塚市高齢者よろず相談センター等に案内し公開した。

イ. 介護タクシー福祉有償運送情報一覧を作成

平塚市在宅医療・介護連携支援センターのホームページに掲載。

医療機関（13病院）、公民館、平塚市高齢者よろず相談センター（13か所）等に案内した。

ウ. 平塚市在宅医療・介護連携支援センターホームページの運用

<https://hmc-renkei.jp/>

・セッション数 ユーザーのWebサイト訪問回数をGoogleアナリティクスで集計
5,277回〔前年度4,047回〕

エ. SNS (Facebook) 運用

(3)在宅医療・介護関係者に関する相談支援件数

相談対応回数（延べ数）

相談者内訳	当年度	前年度
病院	11 件	26 件
診療所	16 件	23 件
高齢者よろず相談センター	31 件	47 件
ケアマネジャー	29 件	39 件
薬局	1 件	10 件
訪問看護	5 件	4 件
市民	9 件	14 件
行政	8 件	21 件
介護事業所	13 件	25 件
その他	33 件	48 件
合 計	156 件	257 件

相談項目別数（延べ数）

相談項目内訳	当年度	前年度
入退院連携	2 件	4 件
かかりつけ医・往診医の紹介	17 件	16 件
医療資源（専門医、歯科医、薬局）	18 件	30 件
社会資源	12 件	29 件
医療介護に関する用語	0 件	1 件
訪問看護（訪問内容、空き状況等）	4 件	1 件
ケアマネジャー	1 件	2 件
介護サービス	5 件	11 件
医療・介護関係者の研修	0 件	7 件
地域住民への啓発	0 件	4 件
困難事例の支援	1 件	6 件
その他	44 件	34 件
合 計	104 件	145 件

(4)研修及び普及啓発

ア. 医療・介護関係者の研修 12 件 延べ参加人数 406 人

「グリーフケアを学ぶ」「住み慣れた地域・施設で最期を支えるために」「終末期の寄り添った支援と多職種連携を考える」等

イ. 地域住民への普及啓発 6 件 延べ参加人数 142 人

「住み慣れた住まいでいつまでも暮らすために知っておきたい医療と救急」「体験型終活講座～もしバナゲームで気軽に学ぼう～」等

ウ. センター職員自主研修 12 件 延べ参加人数 12 人

エ. 訪問薬剤師についての動画を作成・配信

7. システム会議運営事業

本会が事務局となり、各種サービスを提供する事業者や関係機関の連絡調整体制及び利用者に対する情報提供体制を確立し、介護サービス等の信頼性の確保と質の向上、充実及び介護保険制度の円滑な運営を図り、高齢者等の福祉の増進に寄与することを目的として運営した。

(1) ひらつか地域介護システム会議

ア. 総会	1 回
イ. 幹事会	2 回
ウ. 会計監査	1 回
エ. 介護情報推進部会	0 回
オ. サービス向上検討部会	6 回

(2) 事業別連絡会（36 回）

ア. 居宅介護支援連絡会	6 回（うち 1 回オンライン）
イ. 訪問介護連絡会	3 回（書面による情報提供）
ウ. 訪問入浴連絡会	（廃止）
エ. 訪問看護連絡会	6 回
オ. 通所サービス連絡会	3 回（うち 2 回オンライン、書面 1）
カ. 福祉用具・住宅改修連絡会	6 回
キ. 介護保険施設連絡会	（休止）
ク. グループホーム連絡会	6 回
ケ. 小規模多機能連絡会	6 回
※グループホーム連絡会と小規模多機能連絡会については合同開催として実施	

(3) ひらつか地域介護システム会議主催による研修等

ア. 全体イベント	0 回
イ. 居宅介護支援連絡会	6 回（うち 1 回オンライン）
ケアマネサロン	4 回
ウ. 訪問介護連絡会	0 回
エ. 訪問入浴連絡会	（廃止）

- オ. 訪問看護連絡会 2回（オンライン）
- カ. 通所サービス連絡会 2回（うちハイブリッド1回）
- キ. 福祉用具・住宅改修連絡会 3回
平塚市防災フェア参加・出展
・福祉用具 市民向け体験会 実施
- ク. 介護保険施設連絡会 （休止）
- ケ. グループホーム連絡会 1回
『注文をまちがえる陽だまりのレストラン』
実行委員会 6回
- コ. 小規模多機能連絡会 1回
『注文をまちがえる陽だまりのレストラン』
実行委員会 6回

(4)ホームページの運営

- ひらつか地域介護システム会議（ひらのすけ） <https://www.hiranosuke.jp>
- ・災害時の情報収集リンク掲載

(5)その他

- ・LINE オープンチャットトークルーム開設

事業区分：収益事業

I. 福祉会館指定管理拠点区分

1. 福祉会館運営事業

(1) 管理運営事業

指定管理者制度における福祉会館の管理運営を行うとともに、高齢者及び障がい者等の福祉の増進と生活向上のための各種事業を行った。

ア. 会議室等の利用状況

高齢者、障がい者、福祉団体を対象に趣味・教養の向上のためのサークル活動や会議の場として会議室等を提供した。また、市民の福祉向上を図るため生活支援等、各種相談の場を提供した。

開館日数 316 日 〔前年度 313 日〕

利用状況 延べ 32,245 人 〔前年度 29,868 人〕

	当年度	前年度		当年度	前年度
第一会議室	5,753 人	5,252 人	集会室	1,974 人	1,338 人
第二会議室	9,760 人	9,396 人	身障判定室	0 人	0 人
第三会議室	5,996 人	6,121 人	料理講習室	727 人	615 人
第四会議室	3,065 人	2,948 人	B相談室	1,502 人	1,002 人
奉仕活動室	1,579 人	1,612 人	C相談室	524 人	401 人
身障いこい室	881 人	759 人	D相談室	484 人	424 人

イ. 障がい者福祉の向上及びボランティア活動の支援

各種奉仕活動の拠点として活動の場を提供した。

利用状況 延べ 2,171 人 〔前年度 3,909 人〕

	当年度	前年度
点訳奉仕室	1,484 人	1,574 人
図書室	186 人	217 人
録音奉仕室	443 人	410 人
ボランティア活動室	58 人	1,708 人

ウ. おもちゃば〜く

子育て支援とボランティアの育成、交流の場として集会室で実施した。

開催 34 回（第 1・第 2・第 3 金曜日午前） 〔前年度 33 回〕

利用者 343 人 158 組 〔前年度 354 人 162 組〕

エ. 広報活動

福祉会館のホームページや X（旧ツイッター）にて情報の提供を行うほか、「福祉会館だより」を年 3 回発行し、福祉会館で配布し利用者へ情報提供した。

(2) 高齢者・障がい者の保健・教養・レクリエーション事業

高齢者及び障がい者の生きがいを高め、健康で明るい生活を目指して高齢者健康・教養

講座や福祉会館まつりを開催した。

ア. 講座開催

講 座	回数	参加者数
おひとり様の為の終活セミナー	4 回	68 人
男の料理教室	1 回	10 人
スマホの使い方相談会	6 回	17 人
ノーミングアップ	1 回	12 人
オカリナリボンコンサート	1 回	50 人
優しいリズム&ストレッチ	2 回	17 人
高齢者のためのスマホ講座	14 回	133 人
高齢者のためのマネー講座	3 回	36 人
よろず相談センター認知症予防教室	1 回	26 人
優しいヨガ講座	4 回	22 人
ふれあいカラオケ大会	1 回	44 人
サククス&ピアノジョイントコンサート	1 回	60 人
フットコンデショニング	2 回	29 人
大人女性のためのパーソナルビューティー講座	2 回	35 人
健康のための日本舞踊講座	1 回	6 人
人生会議（ACP）を知っていますか	1 回	16 人
シーテラス平塚で体操とちょこっとだけ太極拳	1 回	11 人
アクティブシニア就活セミナー	1 回	9 人
クラフトテープでかご作り	1 回	11 人
『楽しいハーモニカなでしこの会』クリスマス演奏会 2025	1 回	94 人
ハーモニカサークル ジュピターハーモニカコンサート	1 回	39 人
合 計	50 回	745 人

※いずれの講座も障がいのあるなしにかかわらず参加可能

イ. 福祉会館まつり

10月24日（金）・25日（土）の2日間開催

・入館者 1,529 人 〔前年度 1,980 人〕

・催物団体 24 団体（3 階大広間）

発表内容 落語、日本舞踊、音楽演奏、コーラス、リズム体操、フラダンス、マジック、詩吟、カラオケ、お遊戯他

・展示団体 14 団体（1 階、2 階ボランティア活動室）

展示内容 手芸、水彩画、書道、絵手紙、写真、各種作品、活動案内他

・販売団体 4 団体（1 階ロビー）

平塚市障がい者団体連合会（手をつなぐ育成会・湘南あゆみ会）

地域作業所連絡会（地域活動支援センターひのき・山晃央園）

ウ. 利用者による園芸ボランティア 合計 11 日 参加者延べ 19 人

エ. 視察、実習等の受け入れ

神奈川県立平塚看護大学校 6月16日(月)、18日(水)

延べ学生 22人 教員 1人

(3)利用者の声

利用者の方々の意見や要望等を伺うために、利用者アンケートや利用者懇談会を行った。寄せられた意見や要望については、その内容や時期について検討した。

ア. 利用者、利用団体へアンケートを実施

期 間 1月13日(火)から1月31日(土)

対象者 福祉会館会議室及び老人福祉センター利用者 523人回答

・令和6年度アンケートの意見を踏まえ、2階及び3階の廊下に点字ブロックを設置した。

・3階の改装について、「明るくなった」「使いやすくなった」等の意見があった。

イ. 福祉会館に関する意見(市長への手紙・市民の声等)

市長への手紙 0件、市民の声 5件

・他施設の閉館等による福祉会館利用者の意見

・駐車場環境に対する意見

・改修工事中の利用に関する意見 他

ウ. 利用者懇談会

市の条例改正に伴い、令和8年度から会議室、3階老人福祉センターの利用方法が大きく変化するため、例年のような懇談会を行わず、各団体の活動に合わせて説明を実施した。

老人福祉センターの団体利用者に対しては、1月に急遽大研修室の改修工事が決まったことから、活動を予定していた各団体等に対し、説明を行った。また、個人の利用者に対しても、できる限り活動の場所を提供するとともに、令和8年度からの利用について理解いただけるよう説明した。

Ⅱ. 平塚栗原ホーム指定管理拠点区分

1. 平塚栗原ホーム運営事業

(1) 管理運営事業

平塚市から指定管理者の指定を受け、管理運営等の事業を実施した。

ア. 会議室貸出実績 [] は前年度

	回数	利用人数
大会議室	215 回 [199 回]	3,102 人 [2,815 人]
小会議室	34 回 [31 回]	176 人 [161 人]
その他の会議室	97 回 [93 回]	719 人 [706 人]

1. 社会福祉基金事業一覧表

別表1-①

令和7年度平塚市社会福祉基金事業決算

(単位 円)

サービス区分	基金事業名	予算額	決算額	差異	備考
団体支援事業	地区社協活動の推進を図るための事業に対する助成	5,146,000	5,142,343	3,657	23地区社協活動費 自治会加入加算 地区ふれあい福祉相談事業 高齢者等サロン事業
	地域活動支援センター利用者活動促進事業	600,000	400,000	200,000	助成2件 (特非) 神奈川県障害者自立生活支援センター (特非) 太陽の光
	【高明基金】障がい者入所施設改良修繕等補助事業	35,000,000	34,342,000	658,000	助成7件 市内入所施設
ボランティア活動支援事業	①一般市民向けボランティア養成講座等	237,000	184,506	52,494	各種ボランティア養成講座、出張の講座経費等
	②専門ボランティア養成講座等	364,000	334,000	30,000	点訳講習会 手話講習会 要約筆記講習会 音訳講習会 傾聴ボランティア養成講座 精神保健福祉ボランティア養成講座
	音訳ライブラリー整備事業	50,000	50,000	0	音訳ライブラリー運営経費
	ボランティアグループ活動費助成	2,200,000	1,954,005	245,995	グループ助成 38団体 (市域18、地域20) 振込手数料含む
	点訳・音訳奉仕団事業助成	95,000	95,000	0	点訳赤十字奉仕団 85,000円 音訳赤十字奉仕団 10,000円
	ボランティア連絡会助成	170,000	170,000	0	広報紙等の発行費用、研修会経費等
	【小泉基金】小泉基金福祉活動助成事業	2,530,000	2,189,426	340,574	①小泉基金福祉活動費(学校) 1,120,242円 ②福祉学びの場(地区社協) 1,069,184円
	【高明基金】移送サービス事業	550,000	278,928	271,072	特別支援学校等送迎 利用者=3人、延べ利用回数=460回 運転ボランティア=6人登録
援護事業	低所得世帯の慰問活動(夏期)	4,030,000	3,680,000	350,000	1人世帯 5,000円×34世帯=170,000円 2人以上世帯 10,000円×351世帯=3,510,000円
	入学卒業祝金等支給事業	3,750,000	2,630,000	1,120,000	①入学祝金 小学校20,000円×13件=260,000円 中学校20,000円×37件=740,000円 ②被服購入費 小学校10,000円×13件=130,000円 中学校20,000円×37件=740,000円 ③中学校卒業祝金 20,000円×38件=760,000円
	寝たきり高齢者等慰問事業	156,000	155,490	510	1回目 117人、2回目 110人 計 227人
	点字図書購入費助成	30,000	13,000	17,000	助成 1件
	子育て支援ネットワーク事業	451,000	426,577	24,423	委員旅費、講師謝礼、通信運搬費、チラシ作成
	緊急援護事業	35,000	17,500	17,500	旅費困窮者に300円支給 緊急を要する場合の飲食物品、被服等の支給
高齢者権利擁護応急的 事務管理 事業	応急的事務管理事業	0	0	0	平成28年度に原資として300万円拠出済み
合計		55,394,000	52,062,775	3,331,225	

別表1-②

令和7年度 平塚市社会福祉基金 拠出項目管理

(単位 円)

項目	期首	増加	減少	期末残高	説明
高齢者権利擁護 応急の事務管理事業	3,000,000	0	0	3,000,000	平成28年度に原資拠出
事業資金貸付	4,635,622	0	1,531,995	3,103,627	平成29年度に平塚栗原ホーム事業資金を貸付

2. 年末たすけあい配分事業一覧表

令和7年度配分結果

(単位 円)

区 分	配 分 内 容	件 数	金 額
在 宅 援 護 事 業	生計困難世帯に年末慰問金 (1人世帯 5,000円 2人以上世帯 10,000円)を配分	388世帯	3,675,000
	一般遺児激励金 18歳以下の遺児に激励金(1人15,000円)を配分	児童数65人	975,000
	修学旅行支度費 (小学生5,000円 中学生10,000円)を配分	55人 (小学生22人/ 中学生33人)	440,000
	小 計		5,090,000
地 域 活 動 支 援 セ ン タ ー 等 補 助 事 業	地域活動支援センターの事業運営に対して配分 1か所あたり 上限100,000円	13か所	916,373
	障がい者グループホーム・ケアホームの事業運営等に配分 1か所あたり 上限60,000円	4か所	147,459
	障がい児学童保育事業の運営等に配分 1か所あたり 上限35,000円	8か所	280,000
	小 計		1,343,832
団 体 支 援 事 業	地区社協活動事業 地区社協に地区ふれあい広場事業費(三世代交流事業) として配分 1,656,000円 サロン開催事業費 782,980円	23地区社協 20地区社協	2,438,980
	要援護者実態把握活動事業 平塚市民生委員児童委員協議会へ事業費として配分	1か所	2,768,000
	在住外国人共生事業 支援団体へ事業費として配分	3か所	350,000
	福祉団体等へ補助金として配分 平塚市自治会連絡協議会 700,000円 社会を明るくする運動実行委員会 180,000円 平塚市母子福祉なでこ会 36,000円 平塚市老人クラブ連合会 120,000円 福祉当事者団体 36,000円×11団体	15団体	1,432,000
	小 計		6,988,980
	調査研究 企画広報	広報啓発、法人運営事業	1,096,000
事 務 費			50,502
合 計			14,569,314